

東京美術模様 初編

1
196

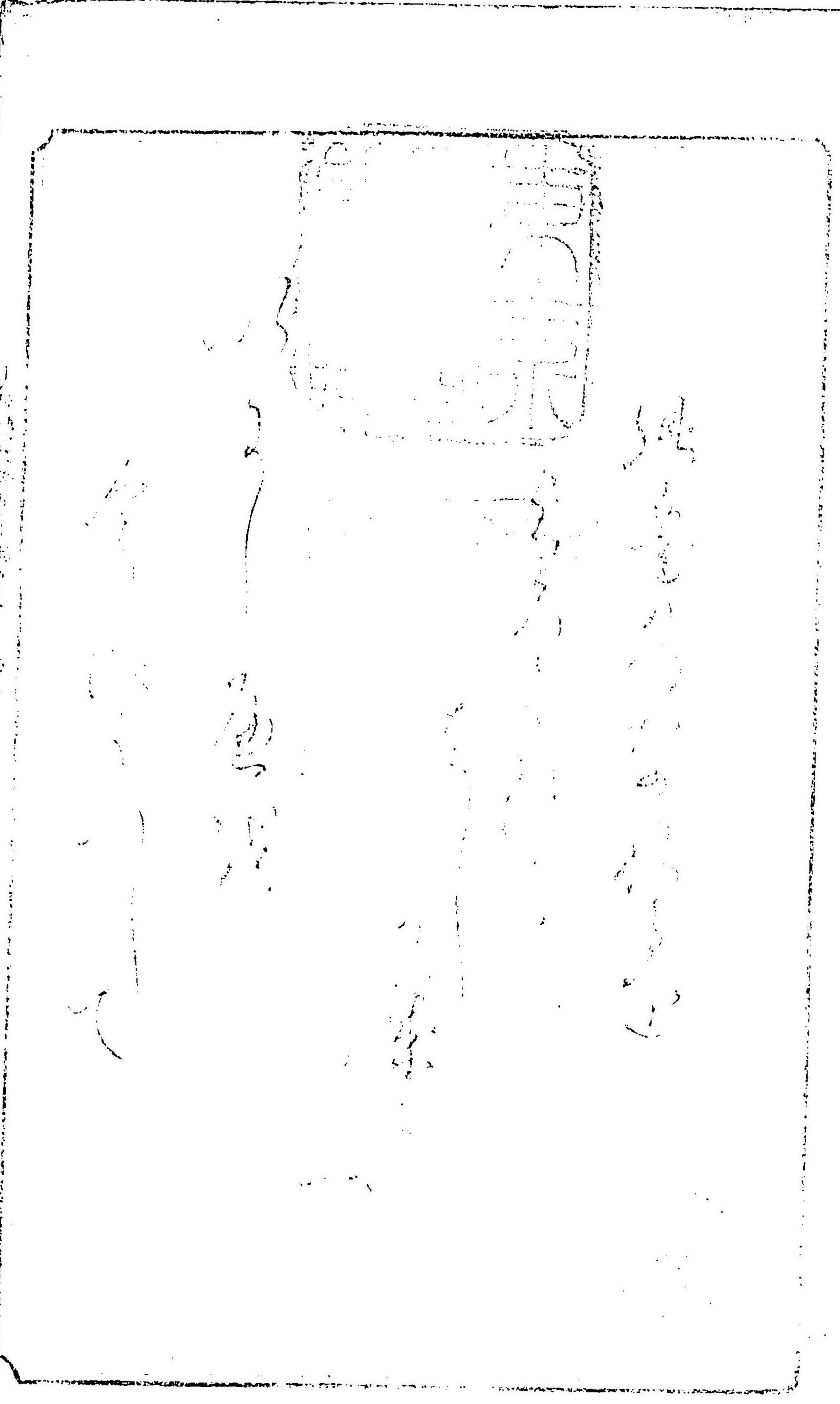
館書圖京東				
一	一九六	一		
冊	號	架	函	類

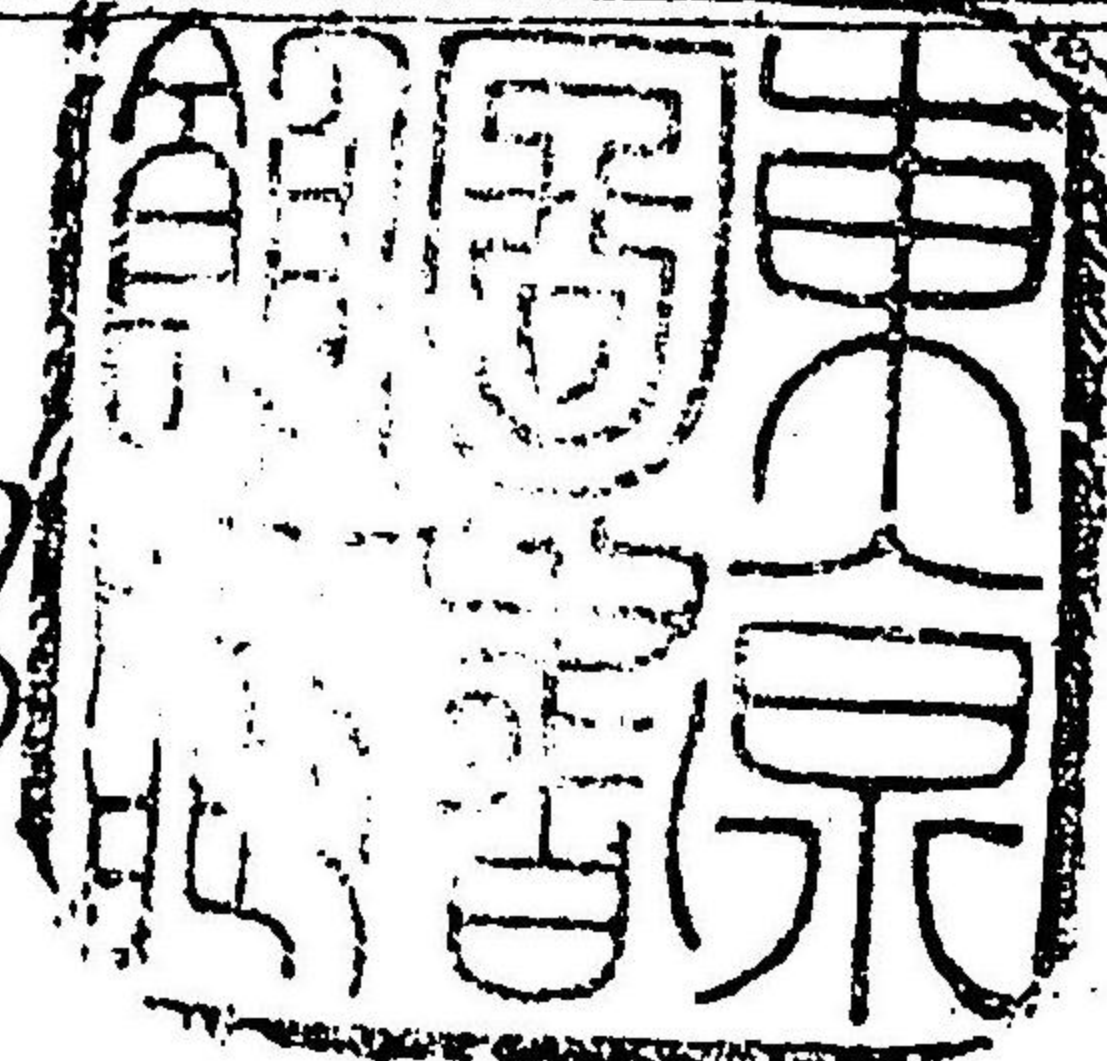
平瀨龜之輔君校
紅雪園春芳翁稿

求古美術模樣

初編

求古館



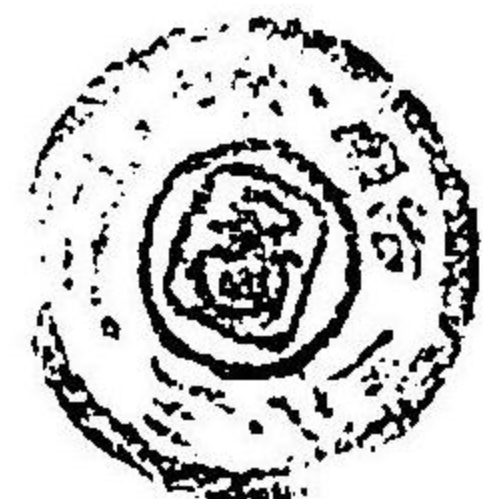


此卷乃抄本也

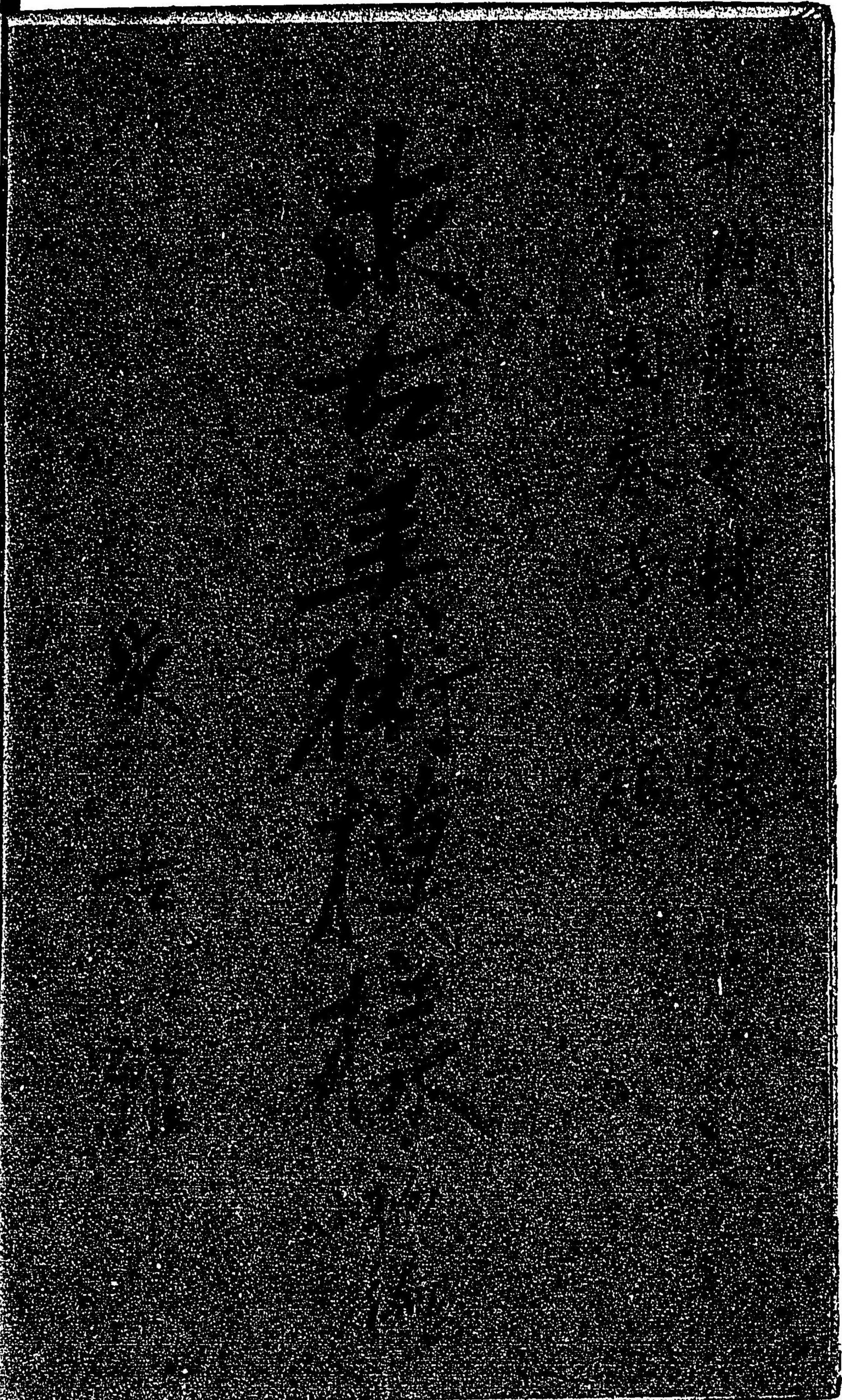
為跋

一筆

今以此



六校書局藏書



何

好

筆

何

春

古人曰業荒於怠精於勤
學若豈可不勤苦哉村上君
春芳嘗從乾也翁專候陶
技淬一勵積歲得其秘極
矣其平生可見若物紋樣

苟有可取為模範者手寫
集輯必藏焉遂積至數千
種其篤志可重也頃者亦
擇其典雅者彙命列之
詳附解說欲上梓以公

世蓋此書一出其所以
裨助初學者豈鮮少
哉余恒好春芳勤苦將有
所為今亦遇此佳舉喜
何堪言乃不顧淺陋聊書

一此編我師曾て諸國漫遊の項工藝に属する模様を備忘録に隨筆せられたる者や
 圖疎密あり或は點擧げしを得られたる者あり又臨摸したる者あり依て諸を咨ひ諸を採り
 て其名稱采色等を審りかゝ然れども師諸工藝に關涉せしれを編者單に陶器畫の外を知ら
 ず故に時繪等不到りて、粉の種類金具の用法を記るも能はず唯その圖を寫せる迄なり又編中師
 も年久し座たる者記臆せられたりしものれを看者其概を取て真を以て告る勿れ
 一編中甲乙三部に區分して甲を和漢綿織物漆物模様等乙を陶器漆器銅器彫刻もの等の模様
 を是余卷の後切地模様編と器物編と前後に編ぶ願たんと欲する所なり
 一編中模様を類聚して寶畫類龍の類獸の類魚の類鳥蟲の類菊桐の類四季草花の類に分別
 して是れ看者の類圖を見出さ便せり
 一此書模様圖案のなかは古物鑑定の参考もあらんとる老練により目次編中模様の名稱又彩色年
 代等を附得たる儘記せり然れども前述の如く陶器畫を以て一方に偏せり且我社會に用ゐる語あり

九例

一此編我師曾て諸國漫遊の項工藝に属する模様を備忘録に隨筆せられたる者や
 圖疎密あり或は點擧げしを得られたる者あり又臨摸したる者あり依て諸を咨ひ諸を採り
 て其名稱采色等を審りかゝ然れども師諸工藝に關涉せしれを編者單に陶器畫の外を知ら
 ず故に時繪等不到りて、粉の種類金具の用法を記るも能はず唯その圖を寫せる迄なり又編中師
 も年久し座たる者記臆せられたりしものれを看者其概を取て真を以て告る勿れ
 一編中甲乙三部に區分して甲を和漢綿織物漆物模様等乙を陶器漆器銅器彫刻もの等の模様
 を是余卷の後切地模様編と器物編と前後に編ぶ願たんと欲する所なり
 一編中模様を類聚して寶畫類龍の類獸の類魚の類鳥蟲の類菊桐の類四季草花の類に分別
 して是れ看者の類圖を見出さ便せり
 一此書模様圖案のなかは古物鑑定の参考もあらんとる老練により目次編中模様の名稱又彩色年
 代等を附得たる儘記せり然れども前述の如く陶器畫を以て一方に偏せり且我社會に用ゐる語あり

一此編我師曾て諸國漫遊の項工藝に属する模様を備忘録に隨筆せられたる者や
 圖疎密あり或は點擧げしを得られたる者あり又臨摸したる者あり依て諸を咨ひ諸を採り
 て其名稱采色等を審りかゝ然れども師諸工藝に關涉せしれを編者單に陶器畫の外を知ら
 ず故に時繪等不到りて、粉の種類金具の用法を記るも能はず唯その圖を寫せる迄なり又編中師
 も年久し座たる者記臆せられたりしものれを看者其概を取て真を以て告る勿れ
 一編中甲乙三部に區分して甲を和漢綿織物漆物模様等乙を陶器漆器銅器彫刻もの等の模様
 を是余卷の後切地模様編と器物編と前後に編ぶ願たんと欲する所なり
 一編中模様を類聚して寶畫類龍の類獸の類魚の類鳥蟲の類菊桐の類四季草花の類に分別
 して是れ看者の類圖を見出さ便せり
 一此書模様圖案のなかは古物鑑定の参考もあらんとる老練により目次編中模様の名稱又彩色年
 代等を附得たる儘記せり然れども前述の如く陶器畫を以て一方に偏せり且我社會に用ゐる語あり

き若看者解難らるるを欲し其語をあげ註釋す

吳須 ゴス 吳語 思語 陶器 金粉 金粉 金のやちり粉にして泥粉と 平金 平金とハ箔を消したるもの

二重金 二重金とハ金の色を愛べん為の 割模様 割とハ模様を割 毛周り 毛彫りハ針

塗込 ぬりこみハ金或ハ吳須にて描きたる此筋書を付けて ダル ダルハ体ハ丸を云ふ

一目法中伊万里を今利キハ俗通易きを以テ如斯ク俵あり看者諒セ

編者記

求古美術模様初巻目次

甲之部

唐畫襖模様

釣石金襴

志賀子戸

合割切

時代沙切

奥福寺銀襴

白極純子

唐畫 唐畫 唐の畫を模したるもの 襖 襖 唐の畫を模したるもの 模様 模様 唐の畫を模したるもの

釣石 釣石 釣石の模様 金襴 金襴 金襴の模様

志賀子戸 志賀子戸 志賀子戸の模様

合割切 合割切 合割切の模様

時代沙切 時代沙切 時代沙切の模様

奥福寺銀襴 奥福寺銀襴 奥福寺銀襴の模様

白極純子 白極純子 白極純子の模様

文 可 内 也

时代 純子

乙之部 五丁 宝来一板

藤 繪 香 金

磁 器 九 谷 曲

陶 器 薩 摩 曲

陶 器 仁 清 曲

磁 器 赤 繪 画

此系赤い色をうすくした色で、磁器の底に用いられることが多い。また、
小の磁器に用いられる。

純子は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

宝来一板は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

藤繪香金は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

磁器九谷曲は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

陶器薩摩曲は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

陶器仁清曲は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

甲之部 三丁 純子類

唐 磁 衣 模 板

錦 織

紹 興 純 子

阿 比 加 美

釵 先 純 子

淨 智 金 襪

乙之部 四丁 純子類

磁 器 九 谷 曲

唐磁衣模版は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

紹興純子は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

阿比加美は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

釵先純子は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

淨智金襪は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

磁 器 九 谷 曲

磁器九谷曲は、磁器の底に用いられる。但し、磁器の底に用いられる。

銅器九紋

中ふじふふあぢりや

陶器粟田画

龍多や、但龍の毛ひも平言け付者

彫刻龍頭

龍神又ハ縁者ウケン如全泥りもむ形主様縁者
ぶふん縁者等ウケン

銅器見込圖

面龍や

甲之部 五丁 獸魚之類

唐器希曼摸標

龍毛の毛は龍毛の毛をいふ
希曼ニ唐ノ官服なり

收れはら

龍毛けんあうのや、馬毛わらびはるわらび
ゆあけ 海地

白部竹多小

龍毛の毛は龍毛の毛をいふ
竹多小は竹多小の毛をいふ

淨智金襴

龍毛の毛は龍毛の毛をいふ
淨智金襴は淨智金襴の毛をいふ

花兜金襴

花兜の毛は龍毛の毛をいふ

月の夜車

月の夜の毛は龍毛の毛をいふ

花地比呂

花地の毛は龍毛の毛をいふ

薙磯令襟

薙磯の毛は龍毛の毛をいふ

乙之部 六丁 獸魚之類

銅器香爐

銅器の毛は龍毛の毛をいふ

陶器仁清画

陶器の毛は龍毛の毛をいふ

陶器薩摩画

陶器の毛は龍毛の毛をいふ

磁器吳須土繪

磁器の毛は龍毛の毛をいふ

磁器金襴子

甲之部

七下 鳥出之類

漆器名也。中々木地に金襴を施すものなり。

綴り糸錦

唐画直掬模様

舟り糸錦

木下金襴

亡羊純子

伴藤切

磁器に金襴を施すものなり。唐画直掬模様は、唐の直掬を模したるものなり。舟り糸錦は、舟の形を模したるものなり。木下金襴は、木地に金襴を施すものなり。亡羊純子は、亡羊の形を模したるものなり。伴藤切は、伴藤の形を模したるものなり。

地は漆に金襴を施すものなり。唐画直掬模様は、唐の直掬を模したるものなり。舟り糸錦は、舟の形を模したるものなり。木下金襴は、木地に金襴を施すものなり。亡羊純子は、亡羊の形を模したるものなり。伴藤切は、伴藤の形を模したるものなり。

漆器に金襴を施すものなり。唐画直掬模様は、唐の直掬を模したるものなり。舟り糸錦は、舟の形を模したるものなり。木下金襴は、木地に金襴を施すものなり。亡羊純子は、亡羊の形を模したるものなり。伴藤切は、伴藤の形を模したるものなり。

秋此取中

長廻野邊

禰絹

乙之部

八下 鳥出之類

時繪

磁石令利画

磁石九谷画

陶器薩摩口画

地は漆に金襴を施すものなり。秋此取中は、秋の形を模したるものなり。長廻野邊は、長廻の形を模したるものなり。禰絹は、禰の形を模したるものなり。

地は漆に金襴を施すものなり。秋此取中は、秋の形を模したるものなり。長廻野邊は、長廻の形を模したるものなり。禰絹は、禰の形を模したるものなり。

相模風

相模風は、相模の形を模したるものなり。磁石令利画は、磁石の形を模したるものなり。磁石九谷画は、磁石の形を模したるものなり。陶器薩摩口画は、陶器の形を模したるものなり。

相模風は、相模の形を模したるものなり。磁石令利画は、磁石の形を模したるものなり。磁石九谷画は、磁石の形を模したるものなり。陶器薩摩口画は、陶器の形を模したるものなり。

相模風は、相模の形を模したるものなり。磁石令利画は、磁石の形を模したるものなり。磁石九谷画は、磁石の形を模したるものなり。陶器薩摩口画は、陶器の形を模したるものなり。

銅器

陶器薩摩画

甲之部 九丁 菊桐之類

むらさきくまやう

群青と紫の様な色で描くもの。但し、此の節は、青と紫の
まじりて、赤紫系、青紫系、紫系、青系、赤系、紫系、
金銀のり、青のり、紫のり、赤のり、青のり、紫のり、
砂子を金粉

大内相金襴

大燈金襴

かじり

五ヶ瀬川

萩の松

地をいじり、あつちを滑り、此相を金襴に施す地

地をいじり、あつちを滑り、此相を金襴に施す地

地をいじり、あつちを滑り、此相を金襴に施す地

地をいじり、あつちを滑り、此相を金襴に施す地

地をいじり、あつちを滑り、此相を金襴に施す地

嵯峨相金襴

菊

乙之部 十丁 菊桐之類

時繪

陶器薩摩画

陶器仁清画

陶器乾山画

きりぎりす

桐と菊の想念のり、花を赤系、緑系、青系、金銀のり、又紫系、赤系、
あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、

破れ極り、菊もやうを金銀のり、あつちを滑り、あつちを滑り、
あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、

片面を写し、あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、
あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、

菊もやう、花紺青、白粉、具のり、紫系、赤系、緑系、青系、
あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、あつちを滑り、

磁器今利画

陶器薩摩画

甲之部

小糸好子画

焼切墨舟切

印金

ろんごん

樽子銀襦

紫石より惣平金と云花赤並深青

菊と云花赤也中より惣赤赤と云花赤と云一様花赤と云
紫金粉と云深青と云金粉と云之も惣赤赤金粉と云

十一、四孝子と云之類

地色下子紫と云ろんごんといふる赤並深青と云
ゆめ下深地

地色下子紫と云牡丹花赤と云地色下子紫と云地
焼切墨舟切と云向方流りとも物ありて金銀の刻印も
小古金襦と云ついでついで

地色下子紫と云牡丹花赤と云地色下子紫と云地
もつと云下子紫と云牡丹花赤と云地色下子紫と云地
その下子紫と云入組と云深青と云

地色下子紫と云牡丹花赤と云地色下子紫と云地
小古金襦と云

地色下子紫と云樽子地色下子紫

糸

巾

乙之部

舟

磁器今利画

銅器

陶器薩摩画

陶器薩摩画

地色下子紫と云糸と云巾と云舟と云磁器今利画と云銅器と云陶器薩摩画と云

地色下子紫と云巾と云舟と云磁器今利画と云銅器と云陶器薩摩画と云

十二、四孝子と云之類

地色下子紫と云舟と云磁器今利画と云銅器と云陶器薩摩画と云

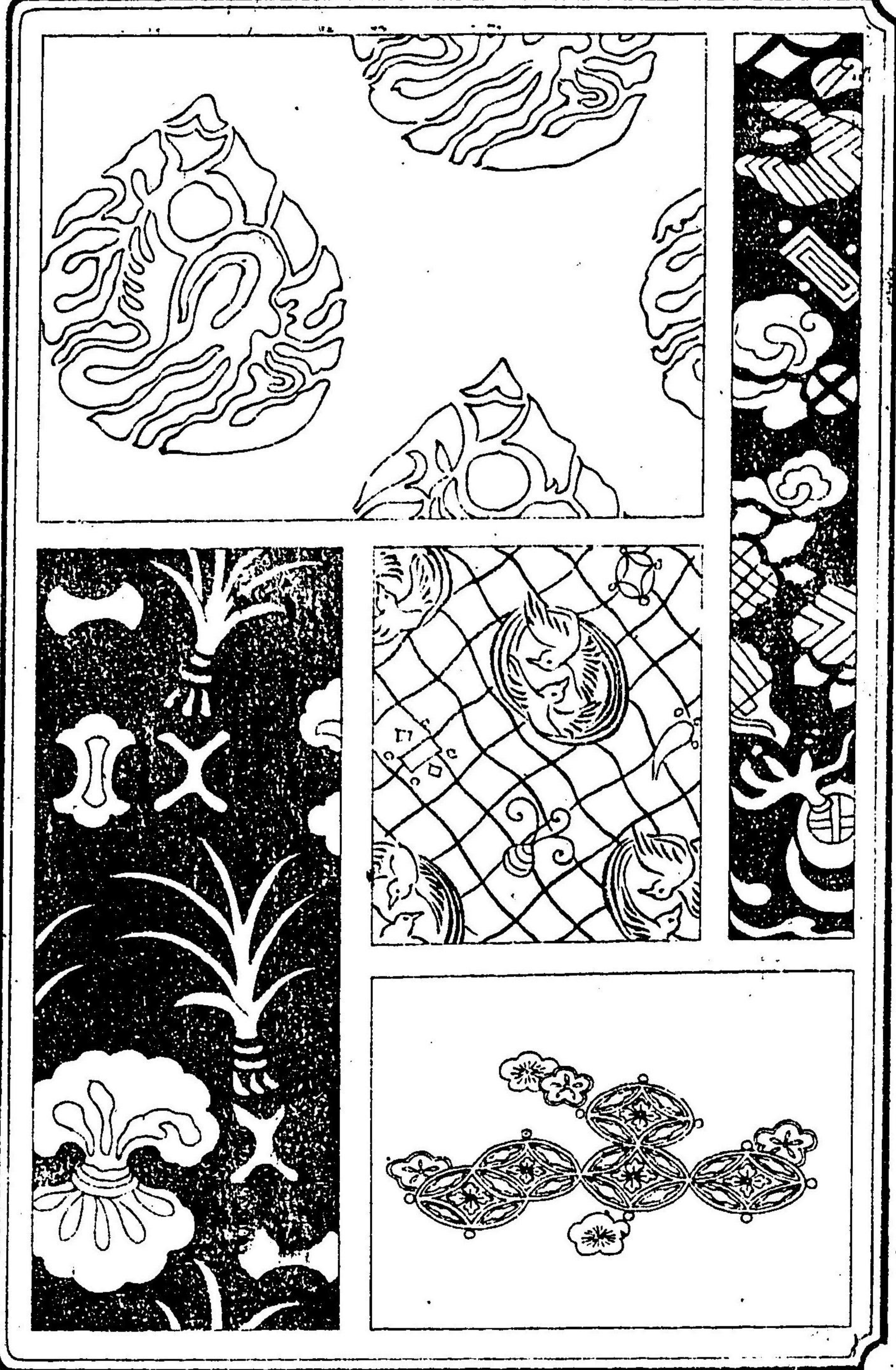
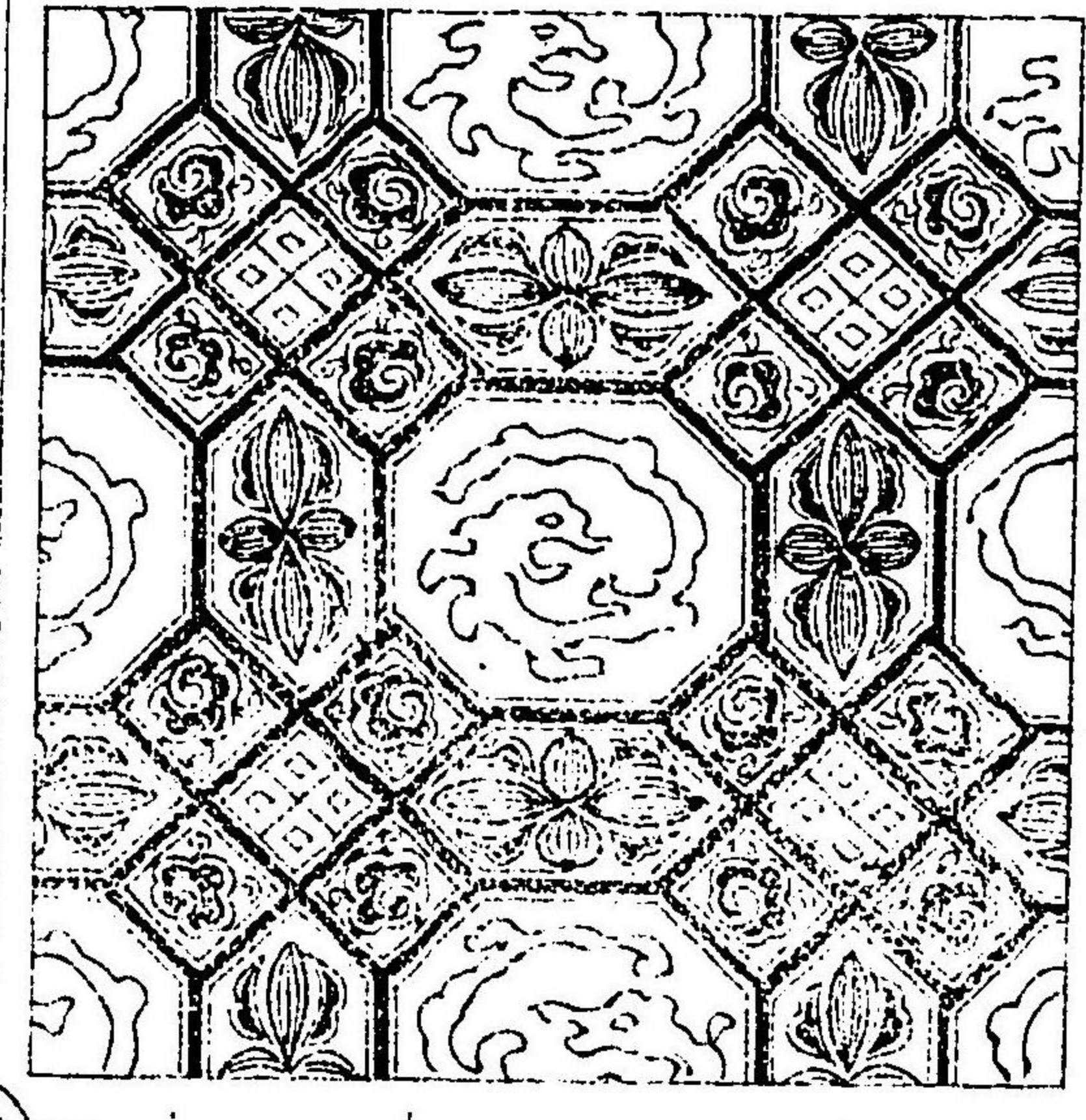
地色下子紫と云磁器今利画と云銅器と云陶器薩摩画と云

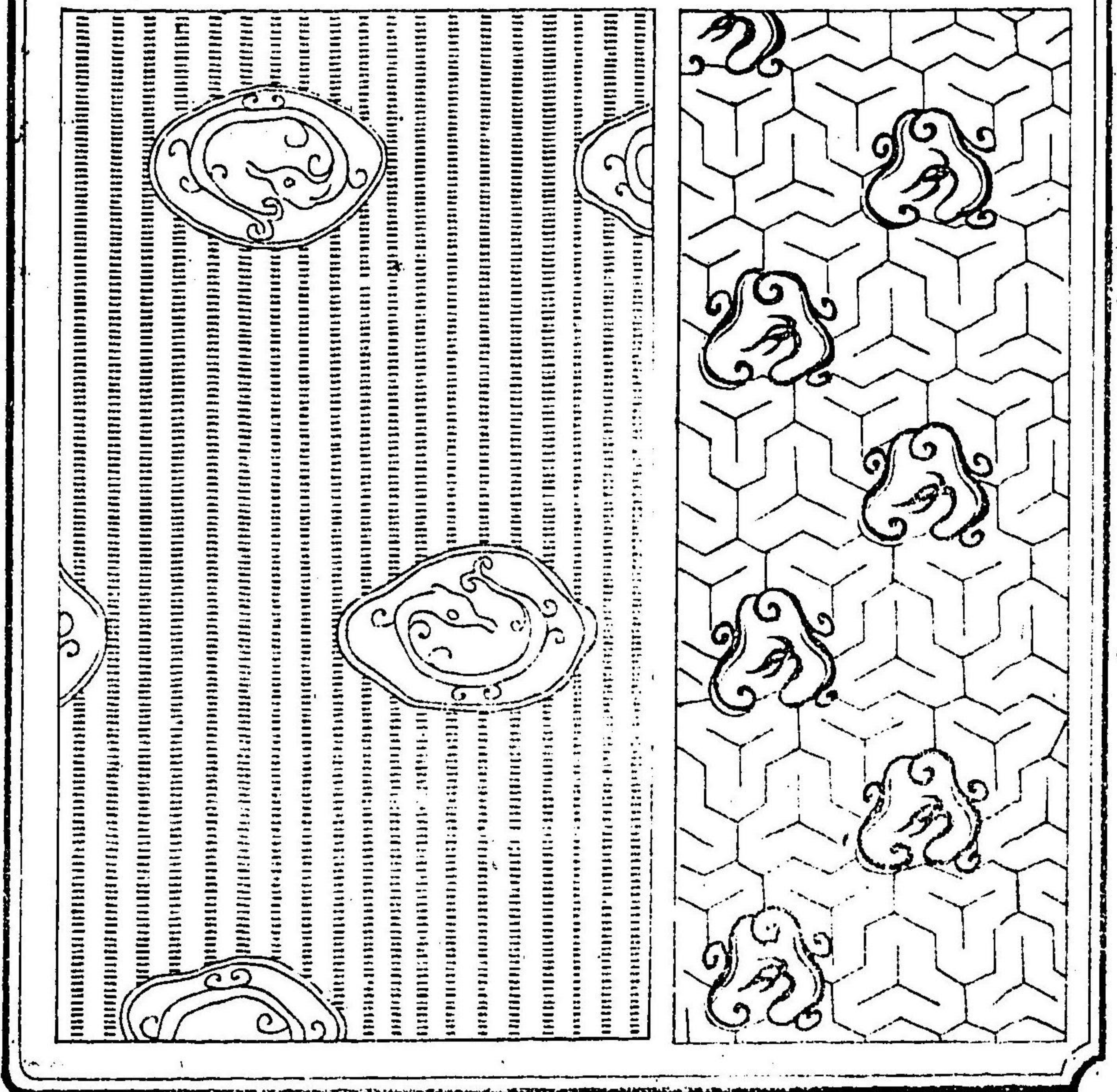
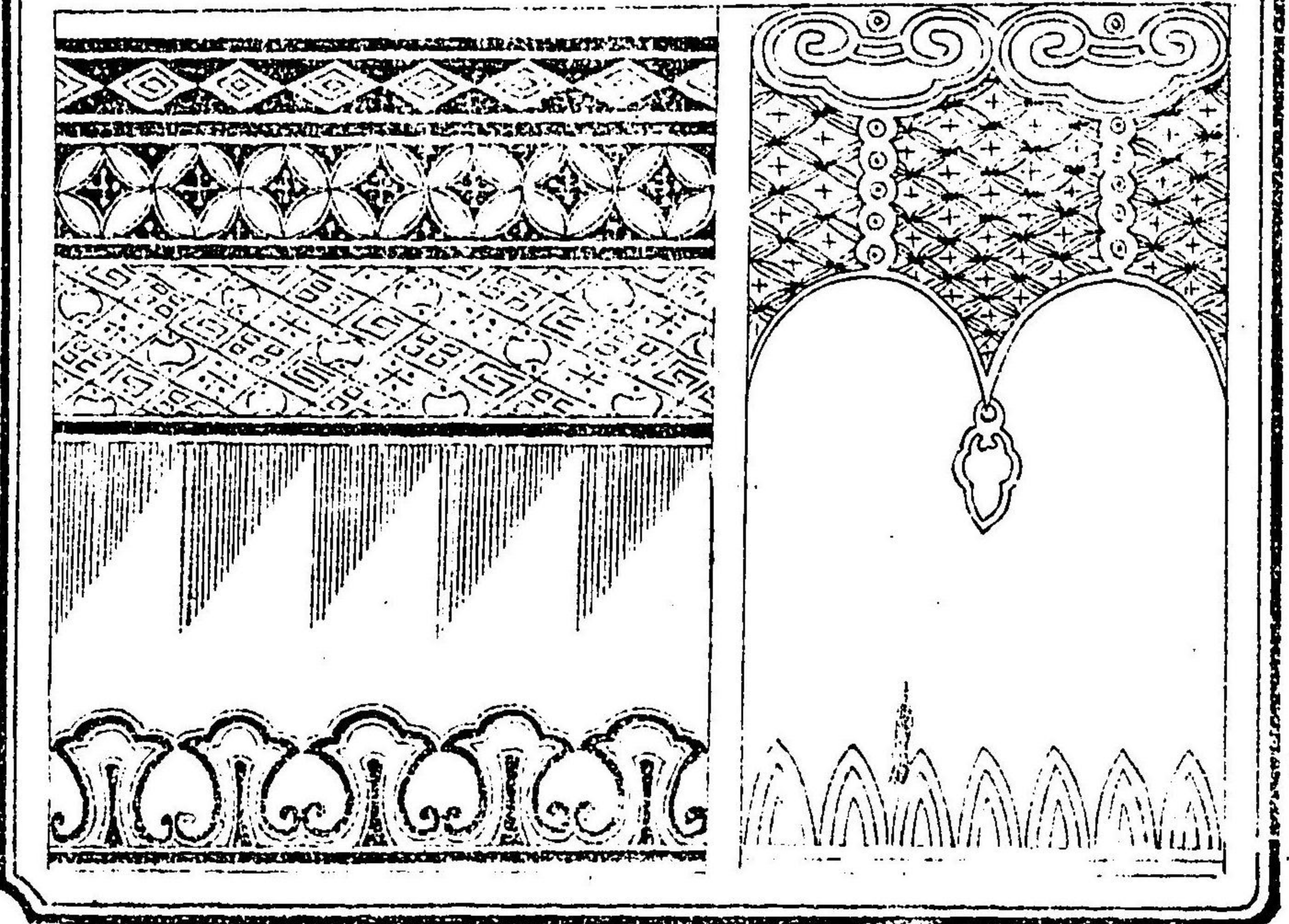
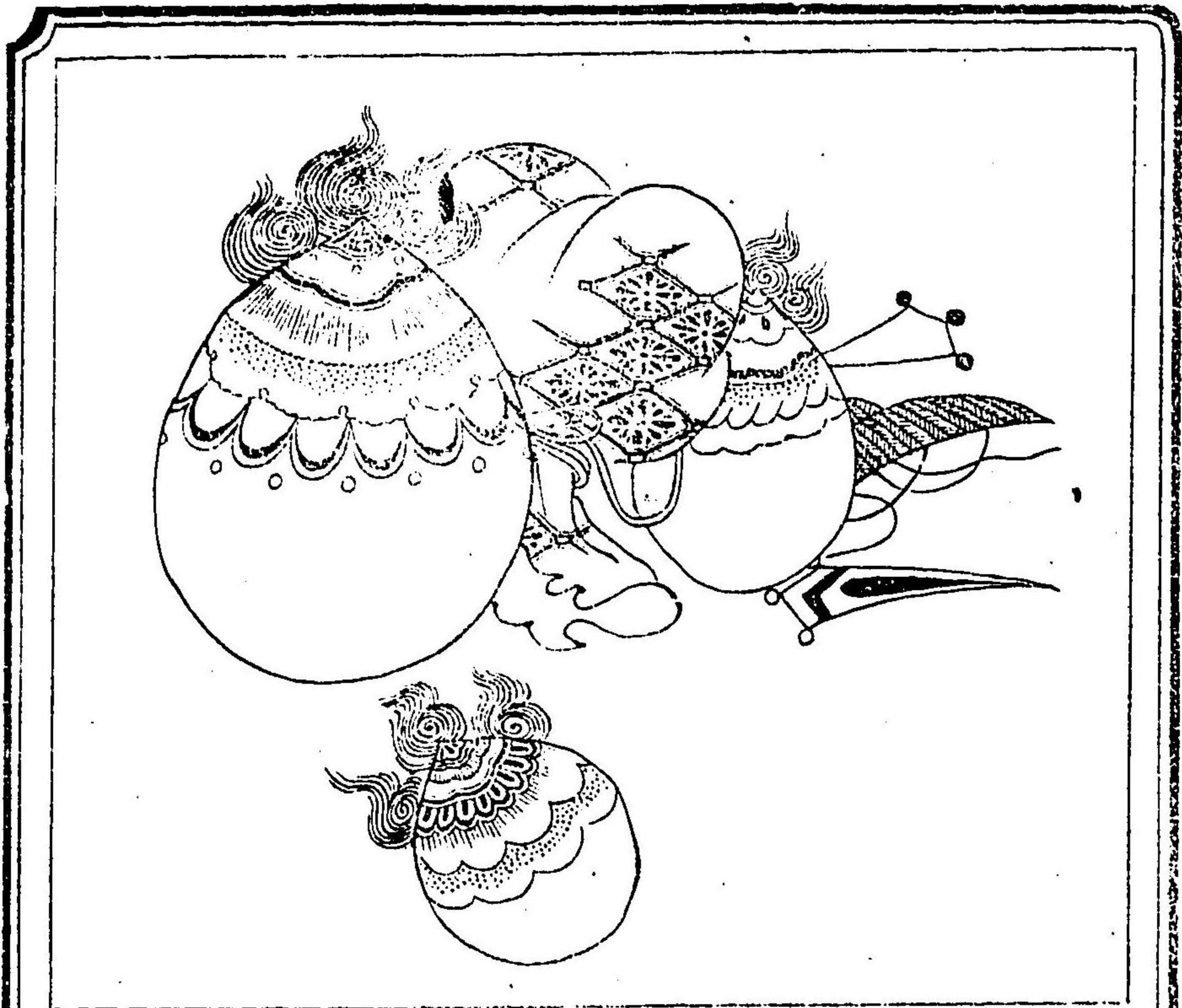
地色下子紫と云銅器と云陶器薩摩画と云

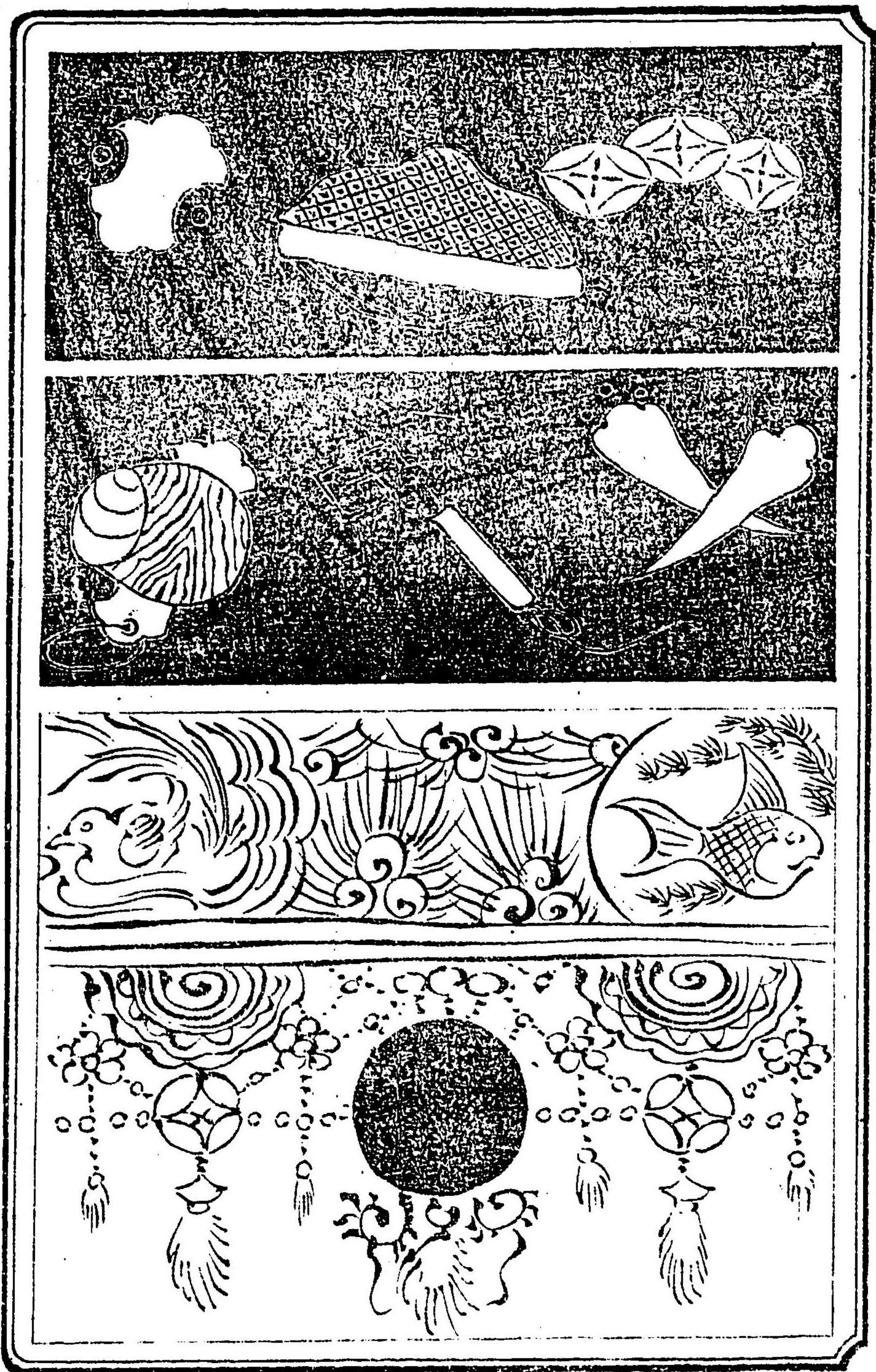
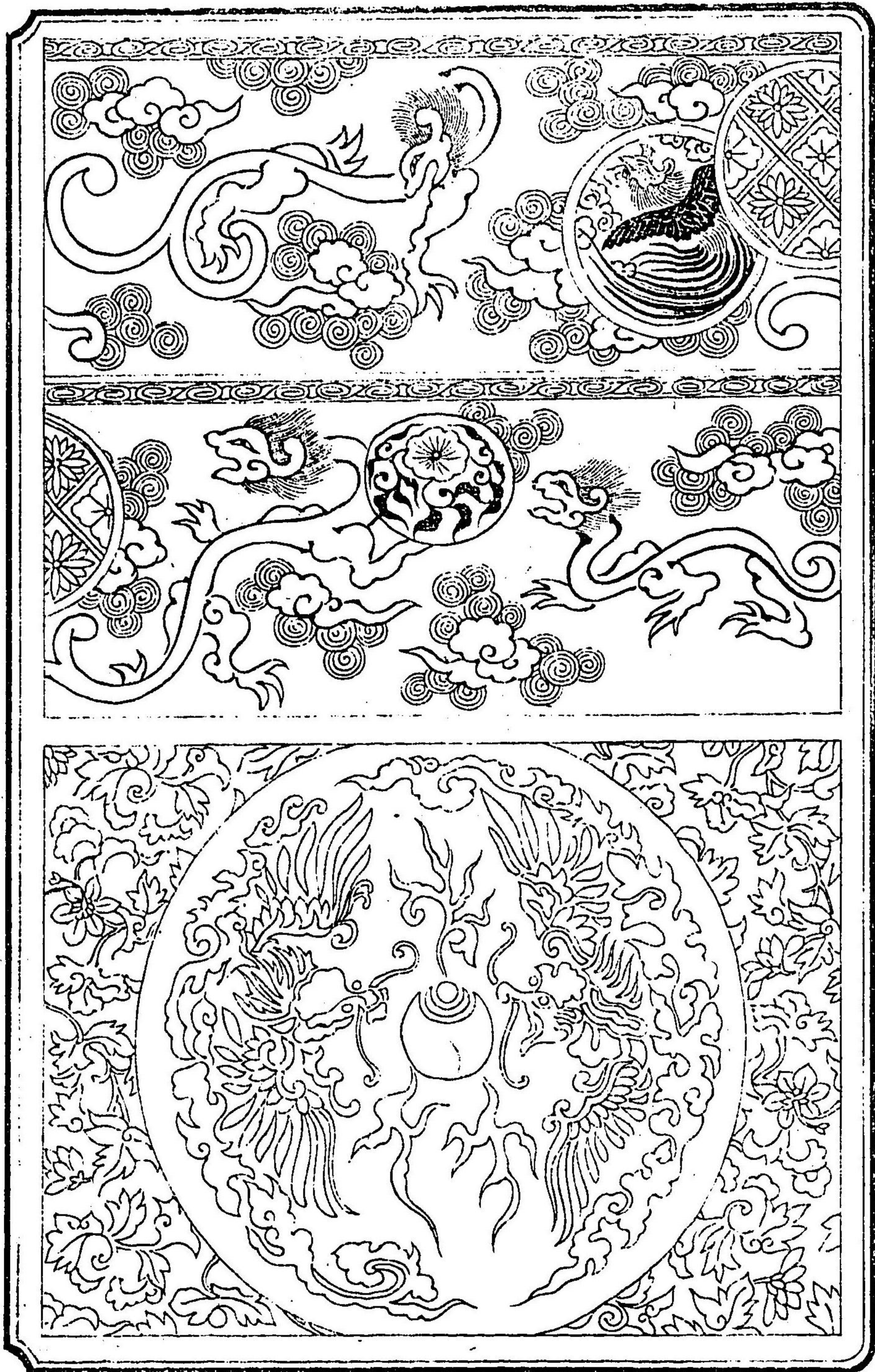
地色下子紫と云陶器薩摩画と云

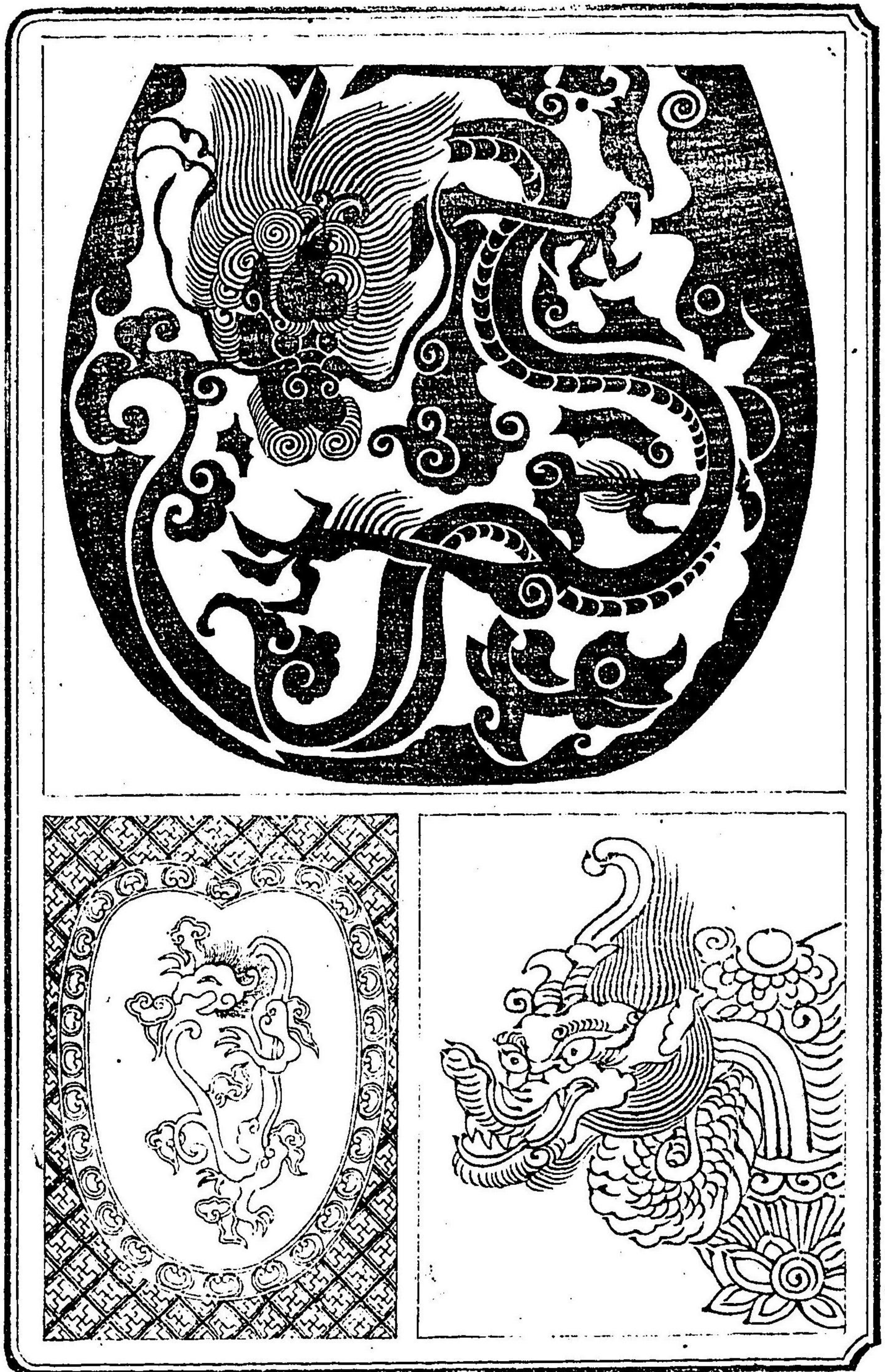
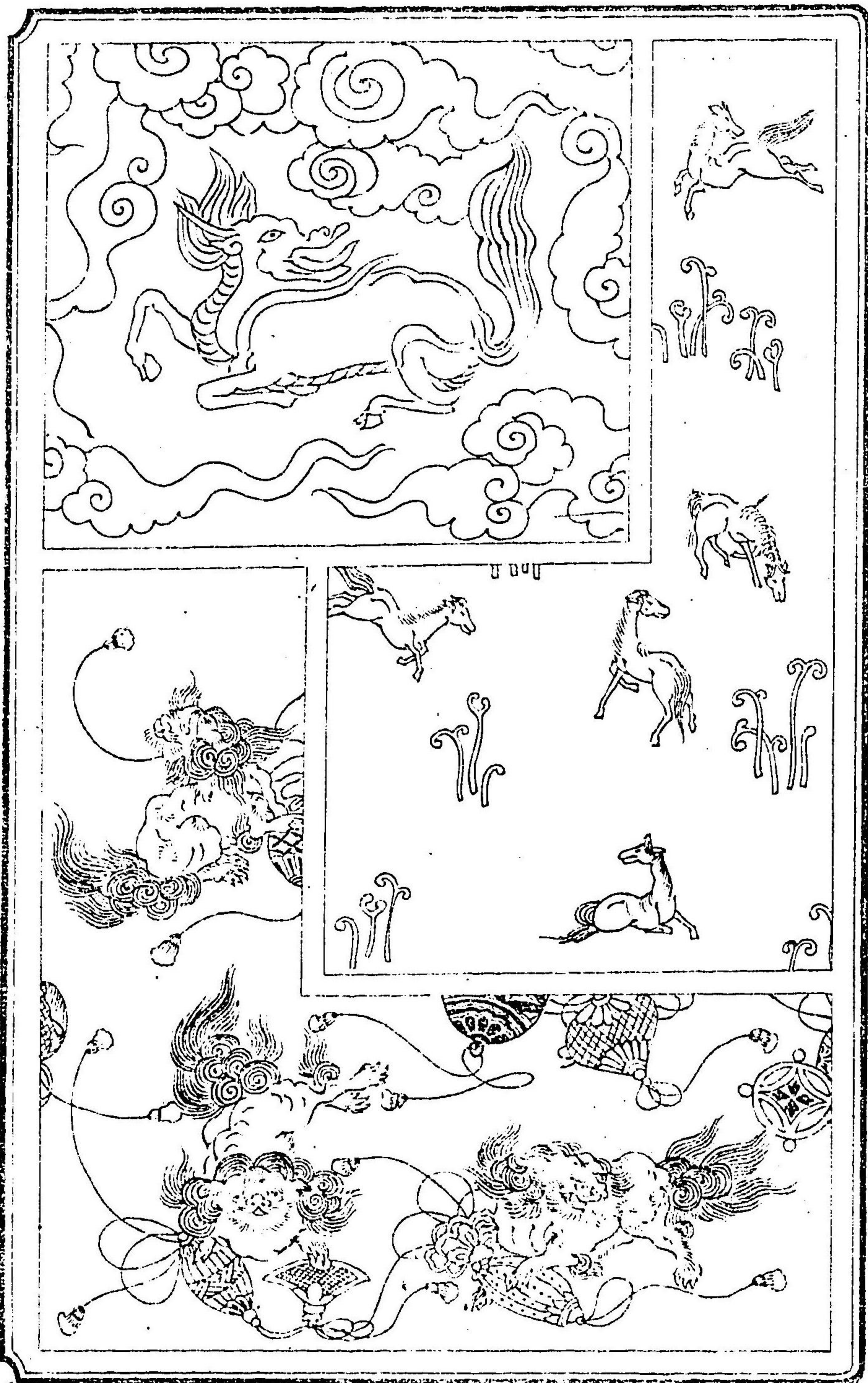
地色下子紫と云陶器薩摩画と云

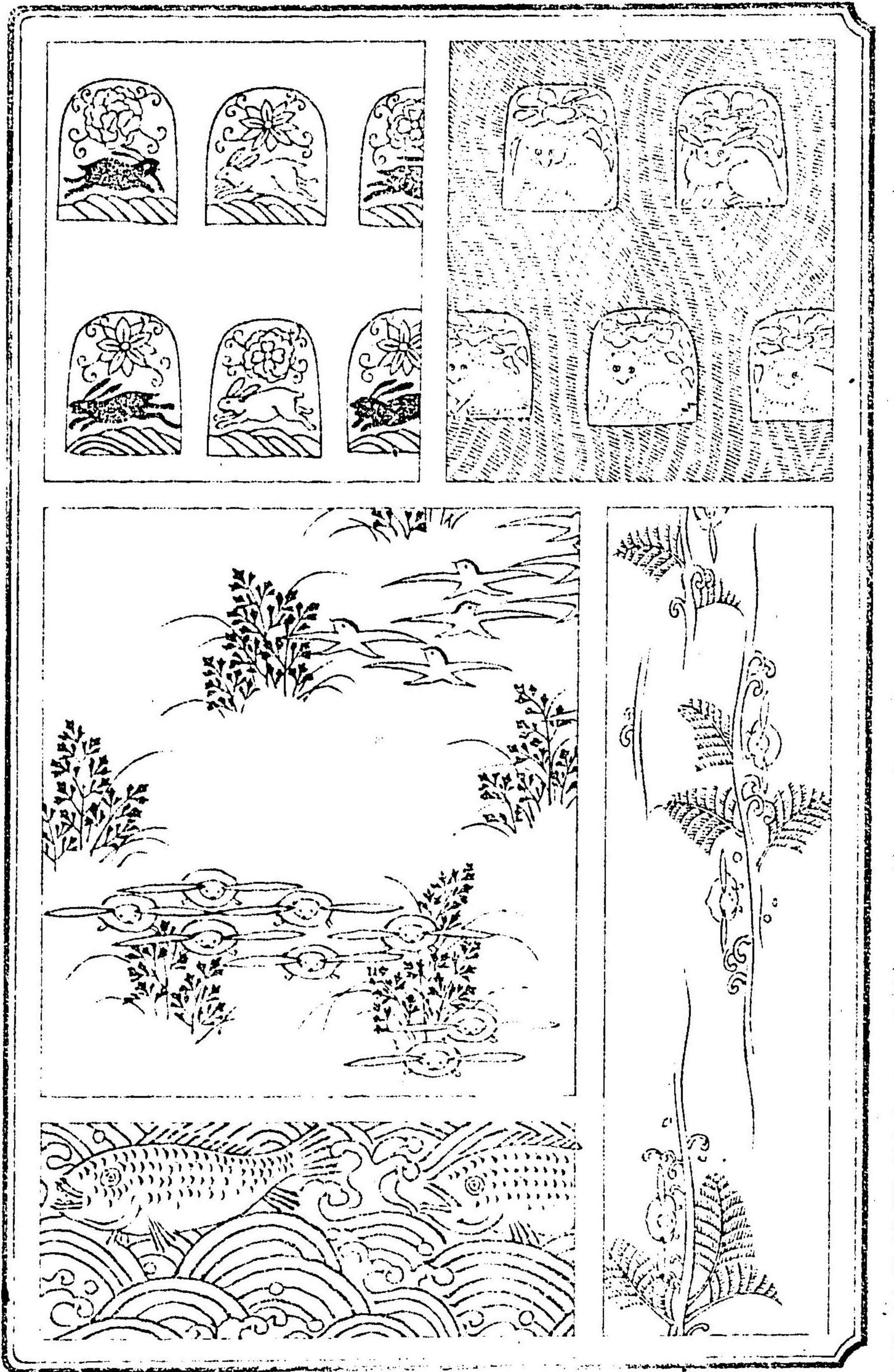
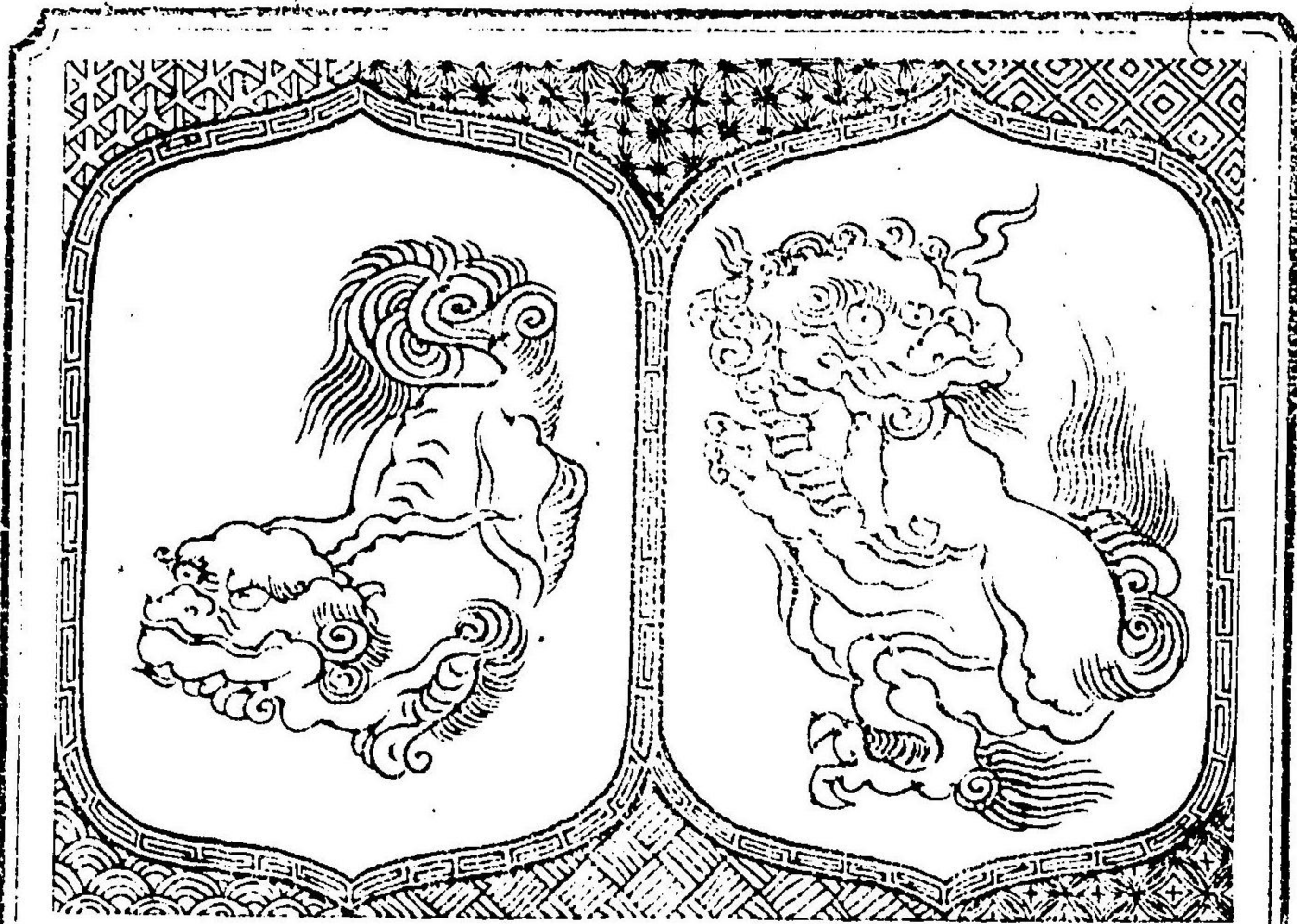
地色下子紫と云陶器薩摩画と云

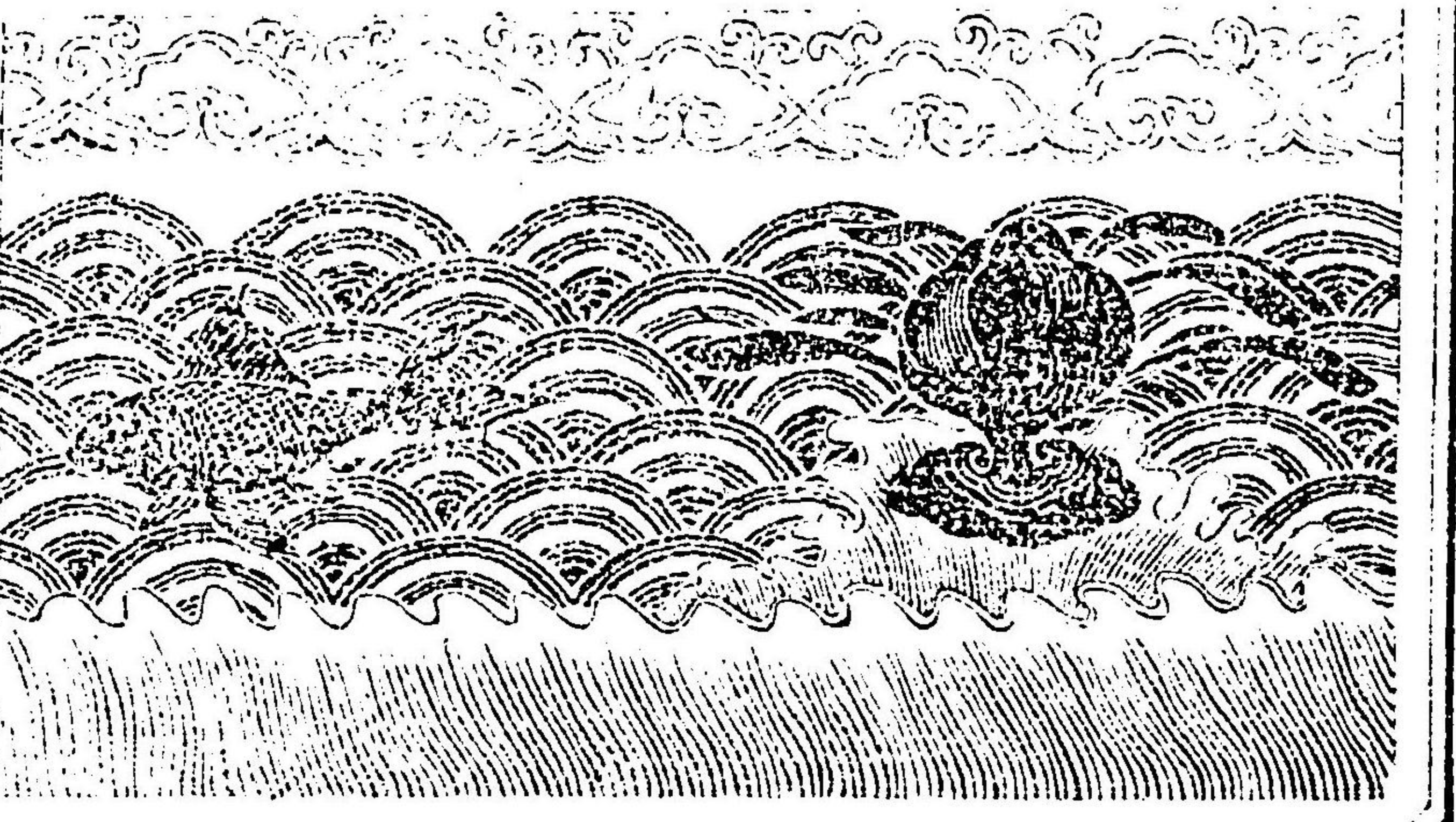
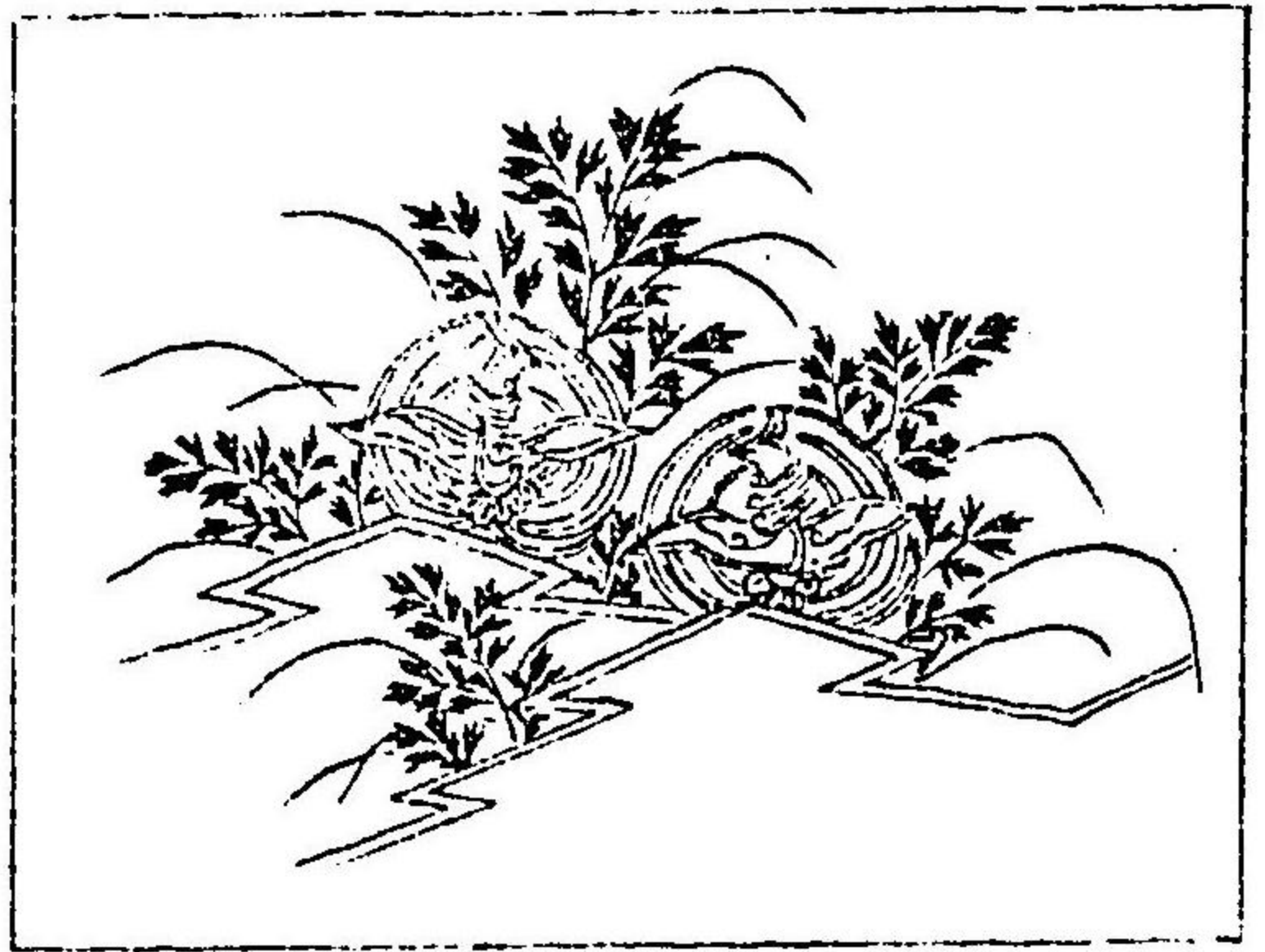
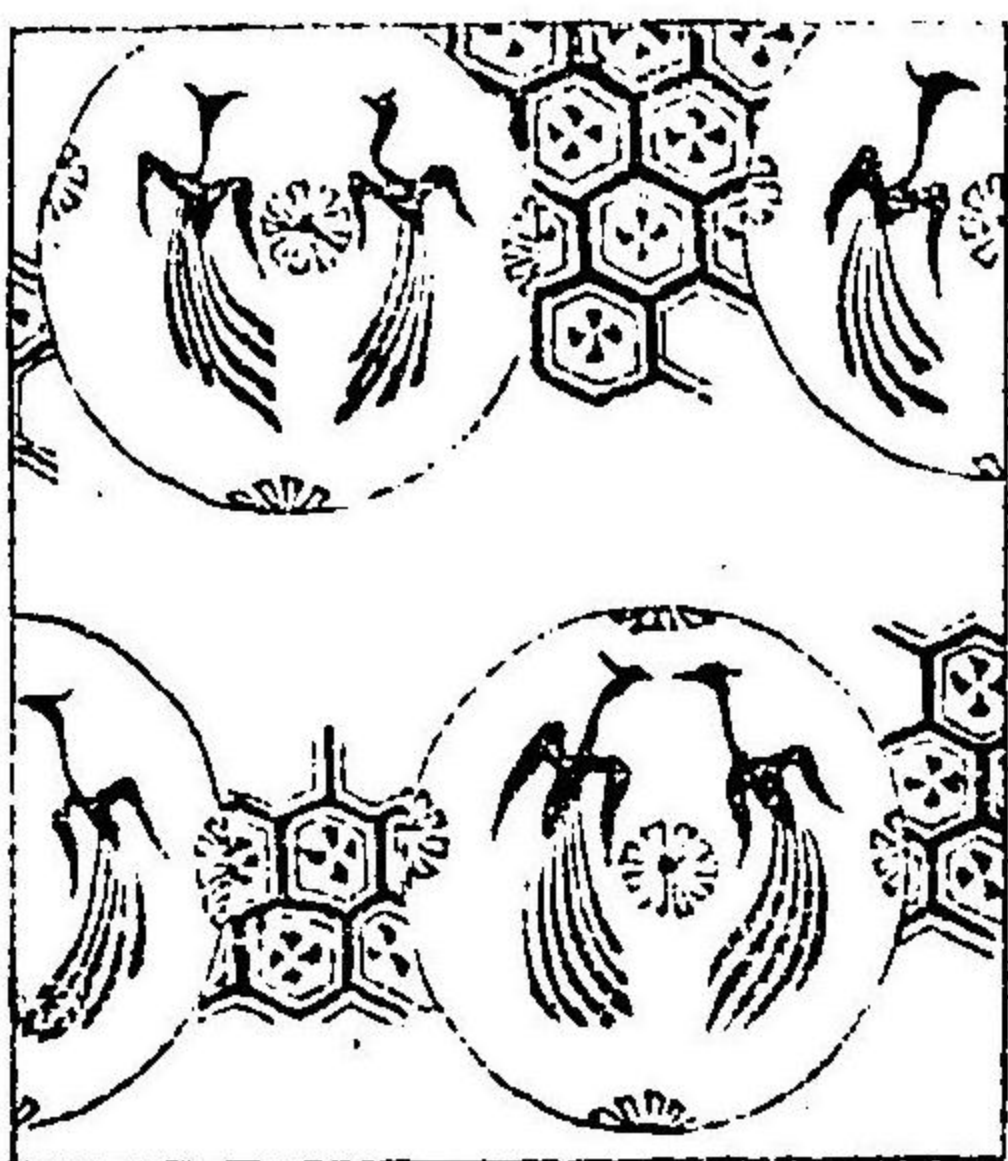
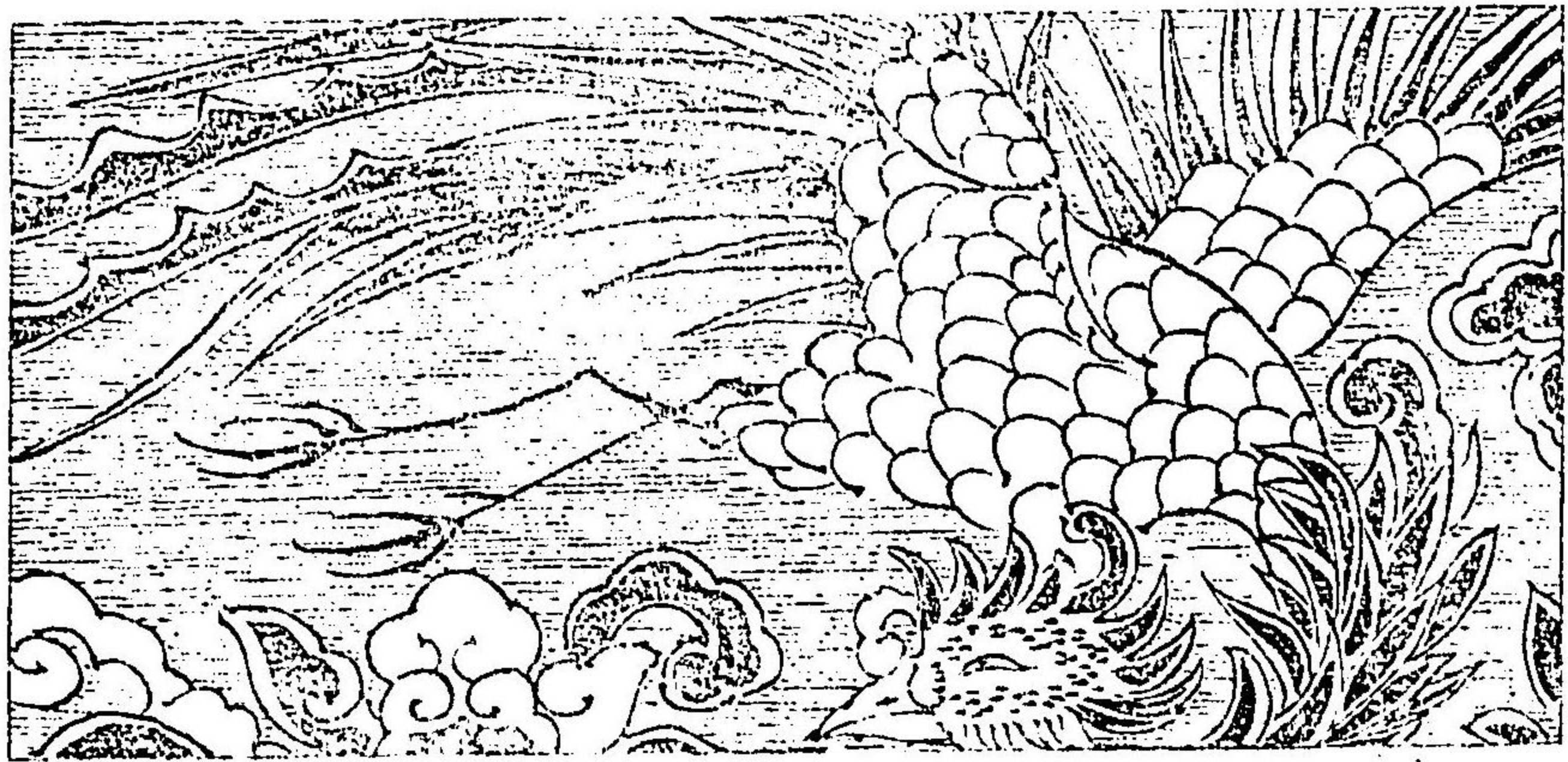


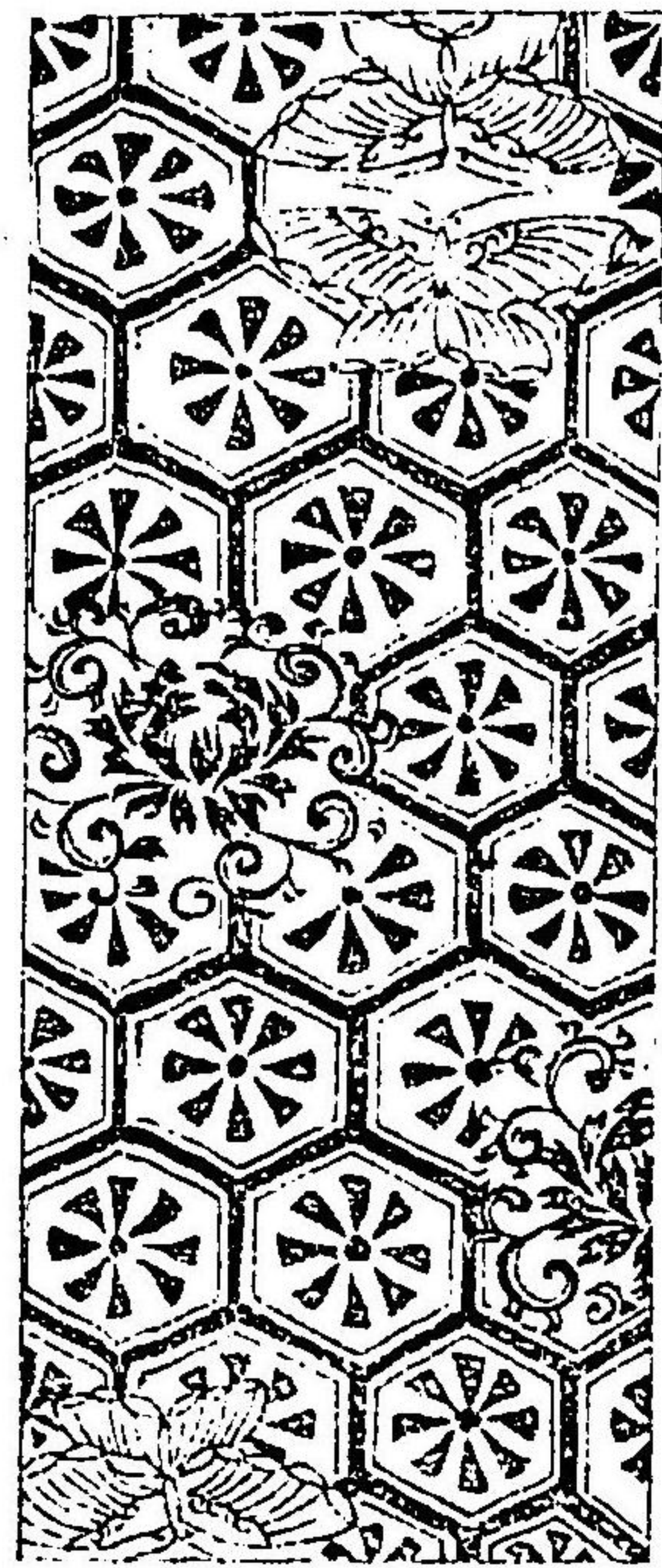
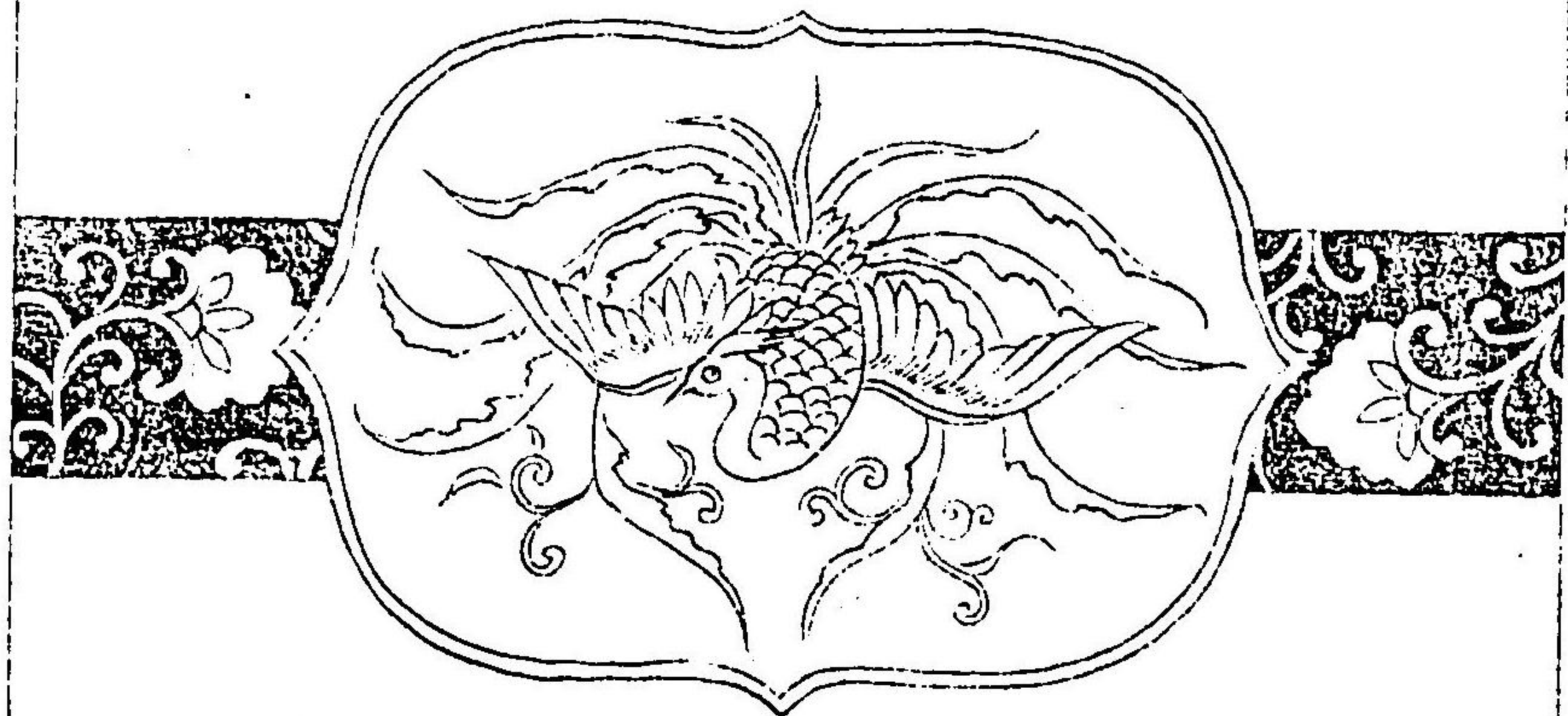


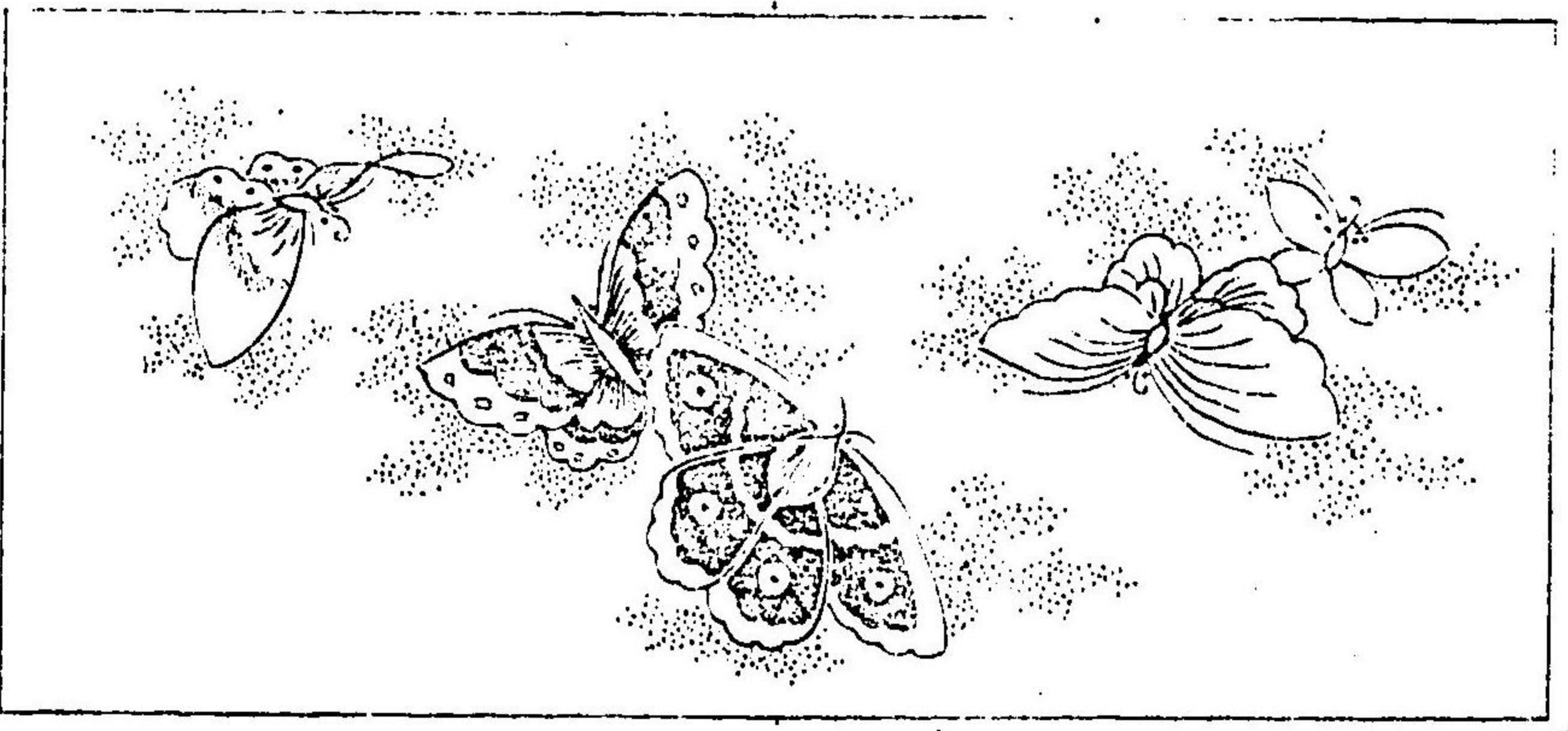
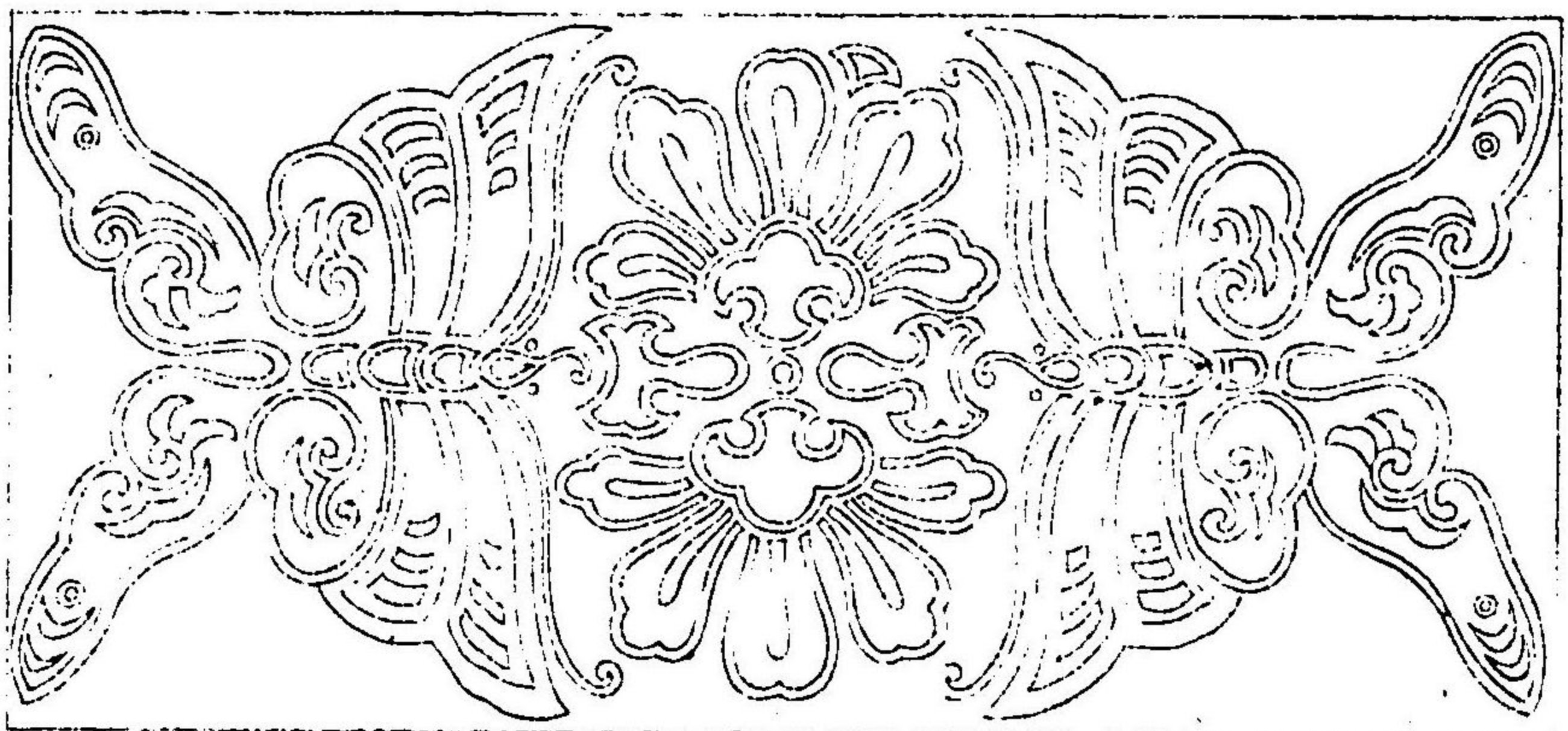
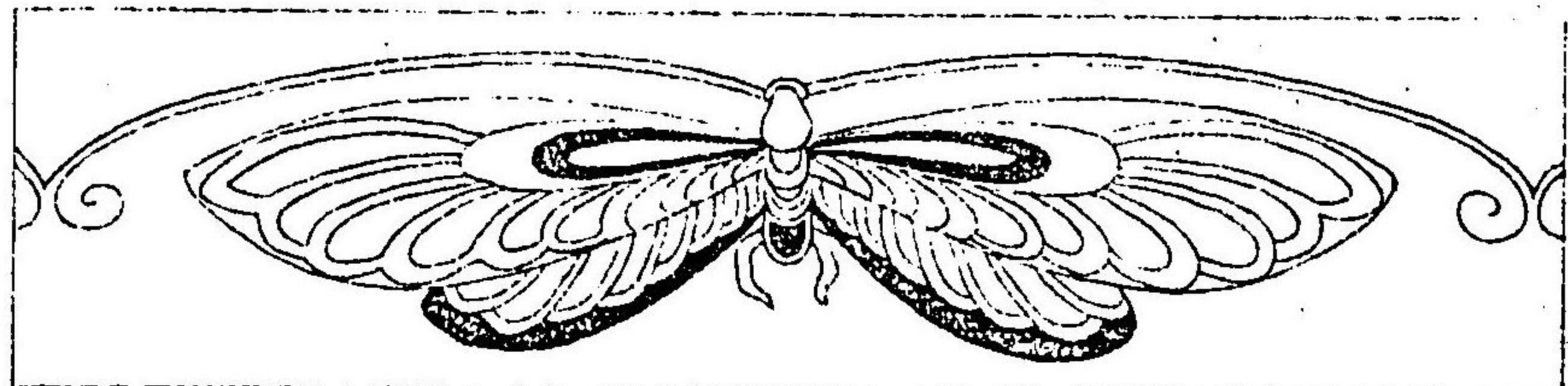
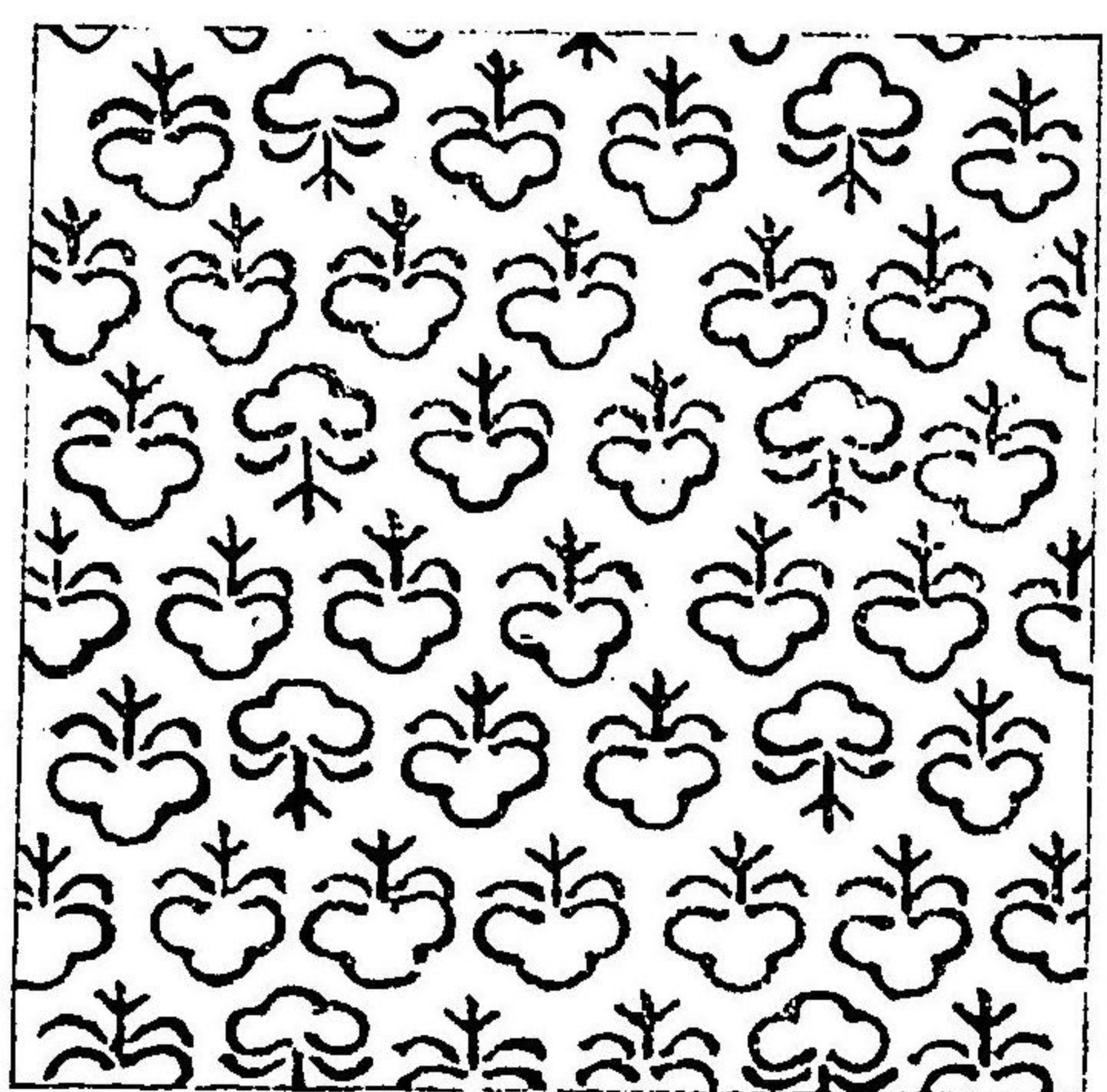
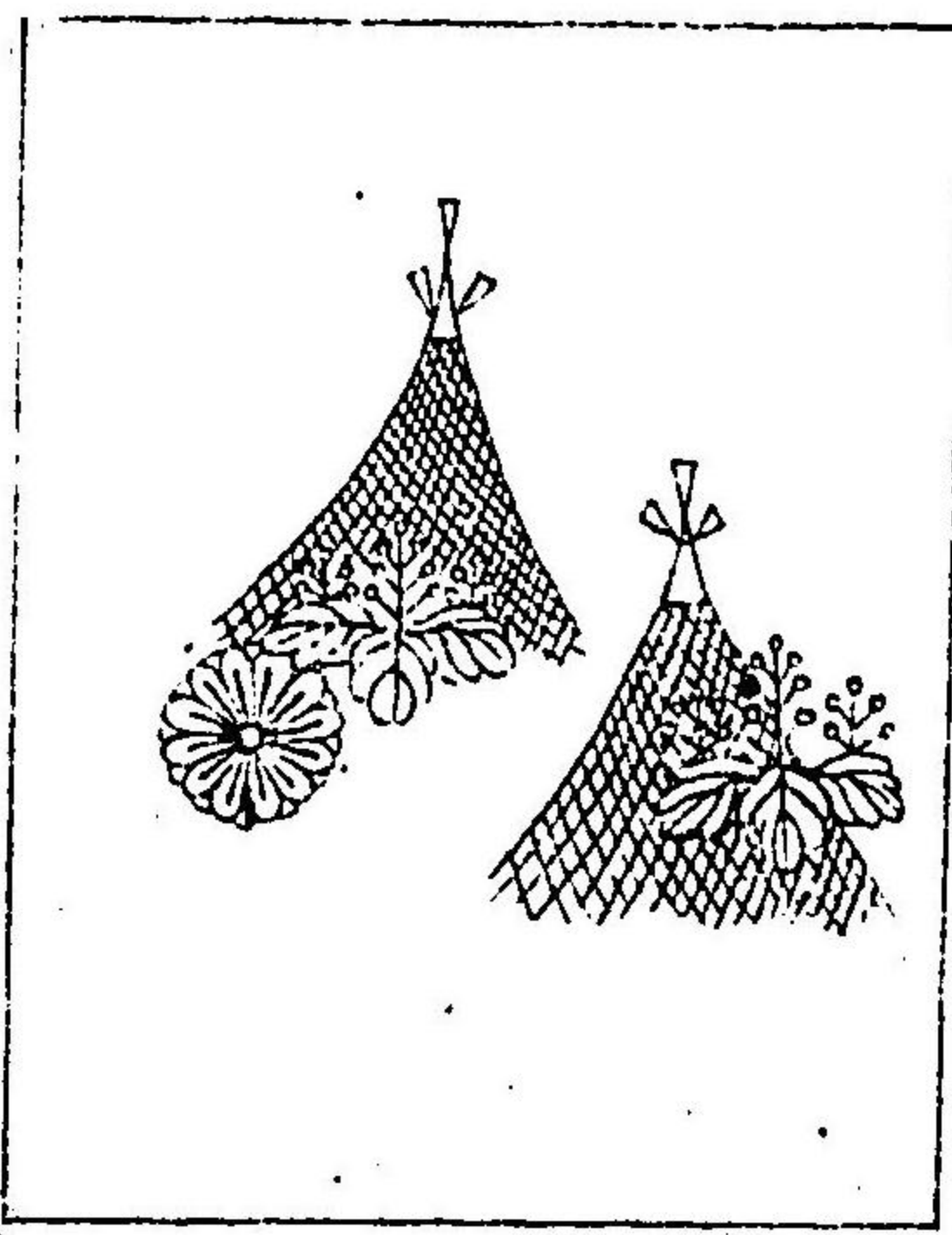


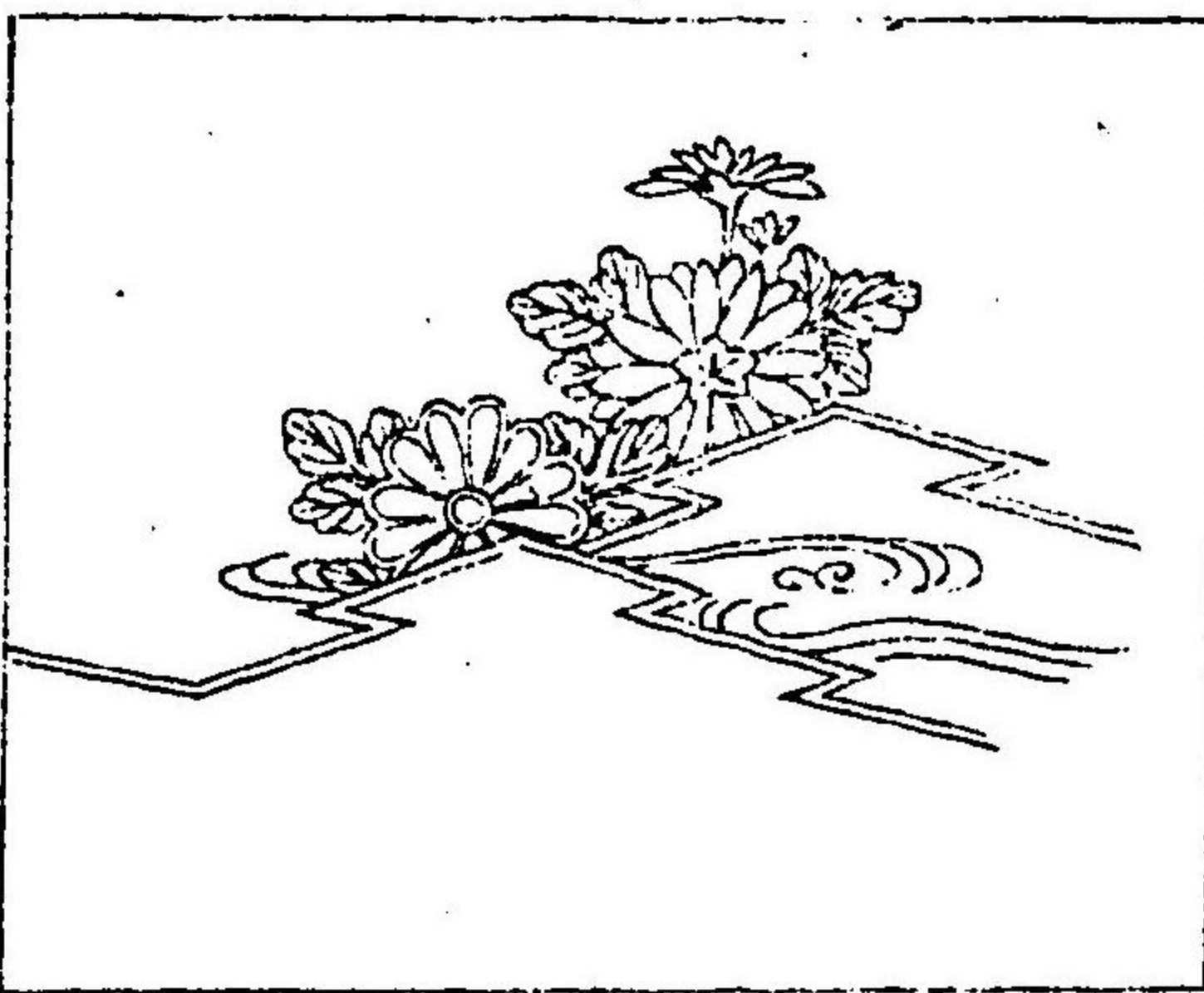
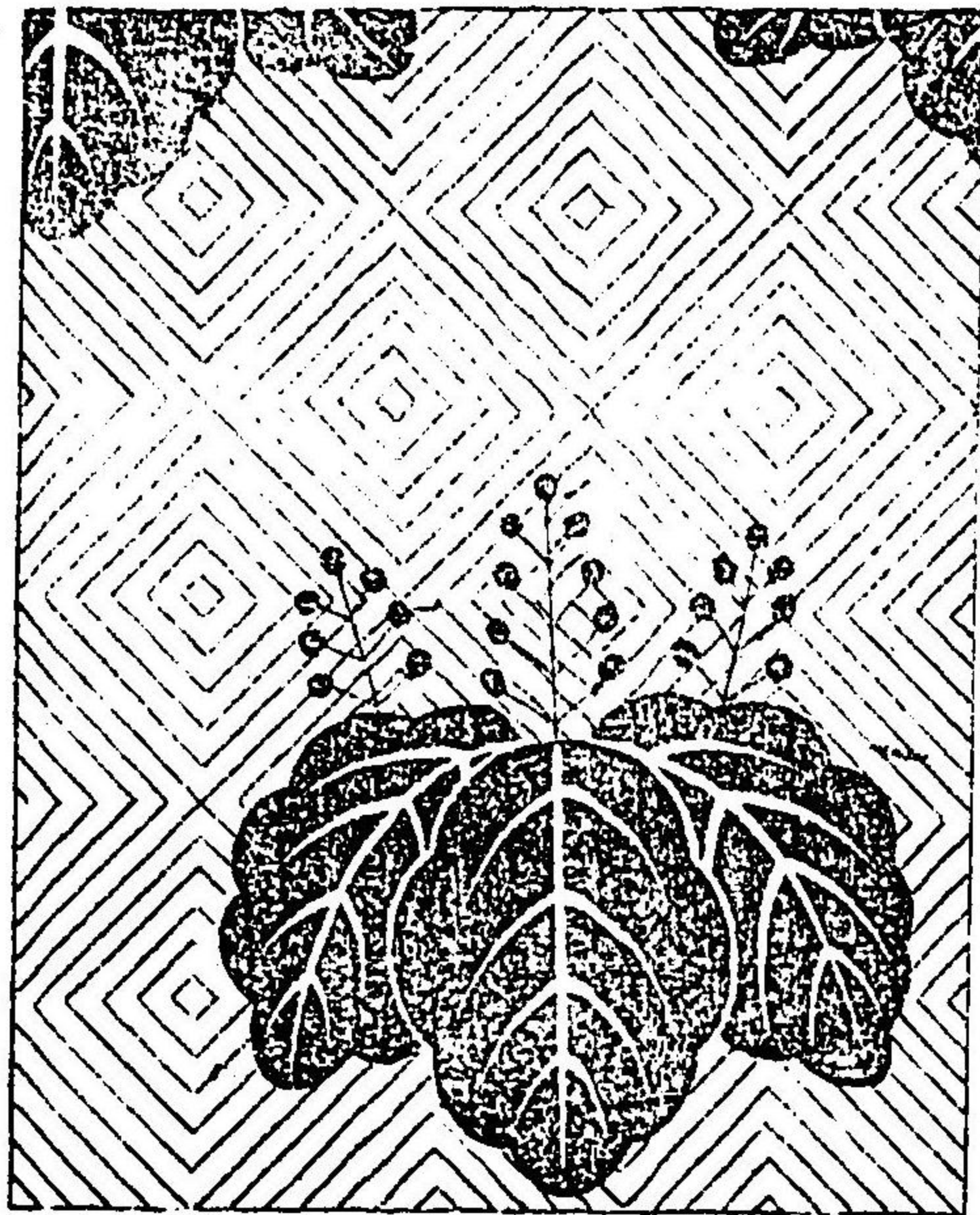
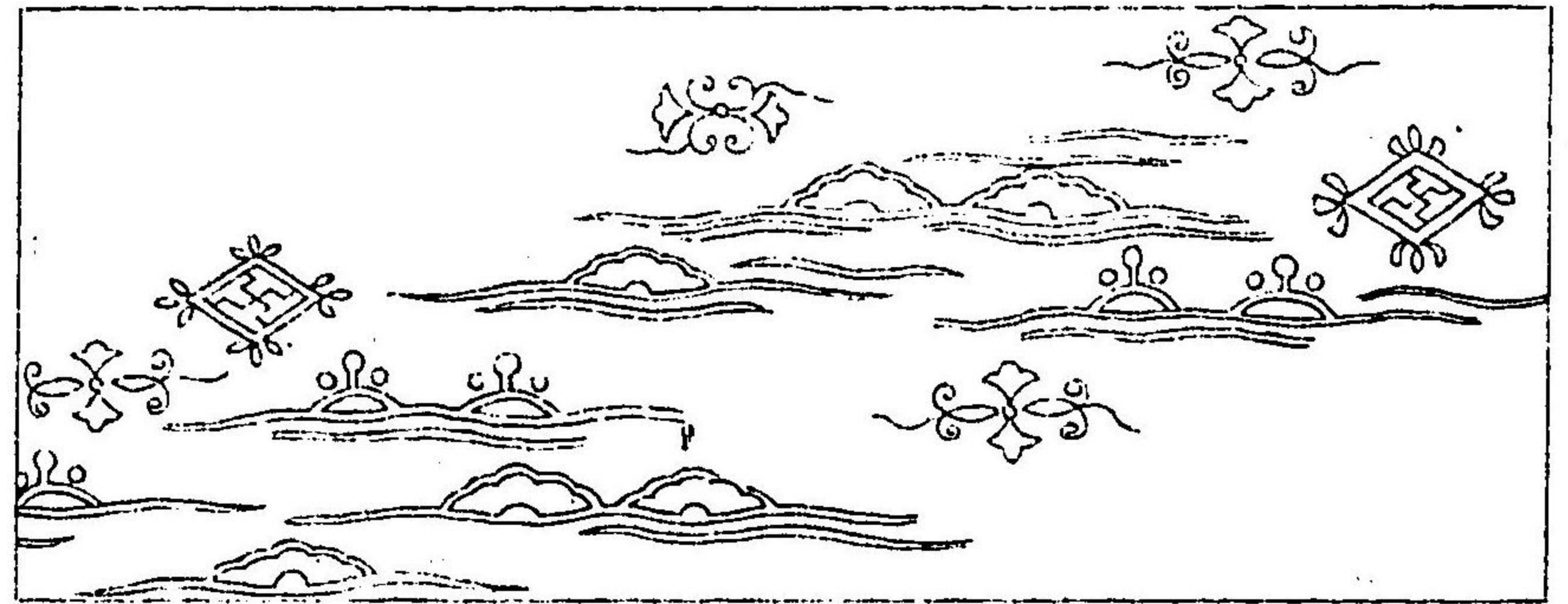
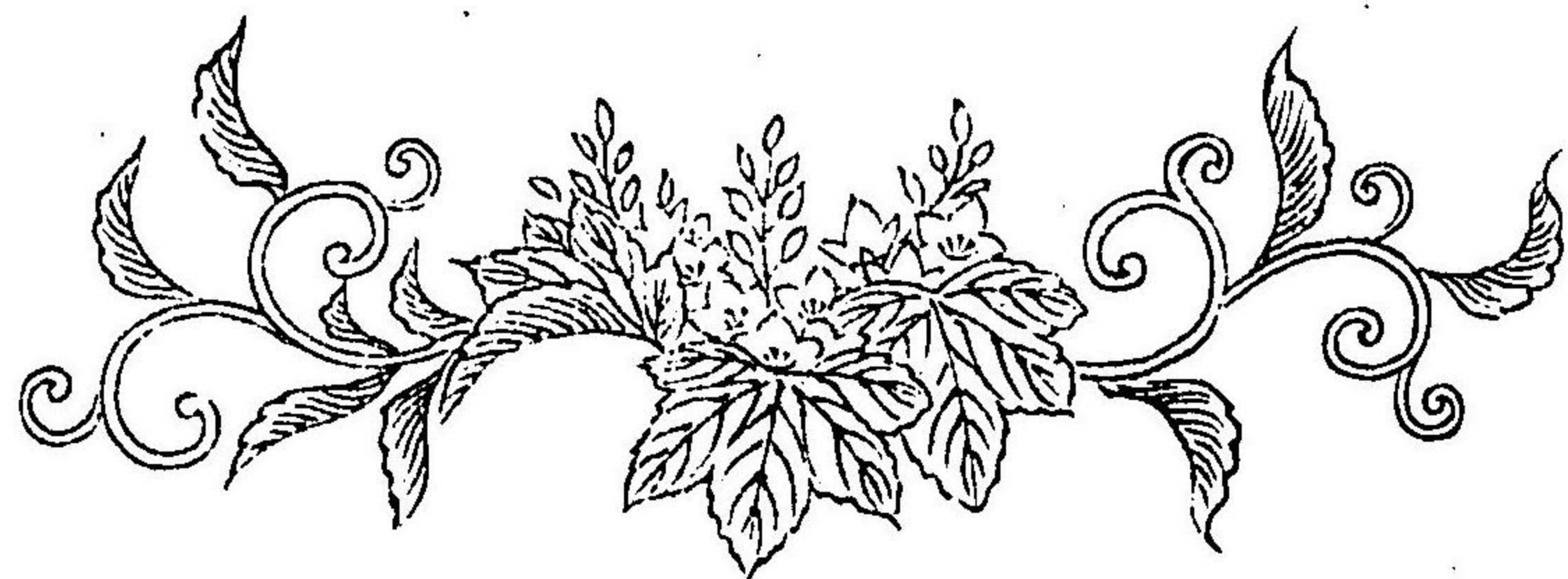


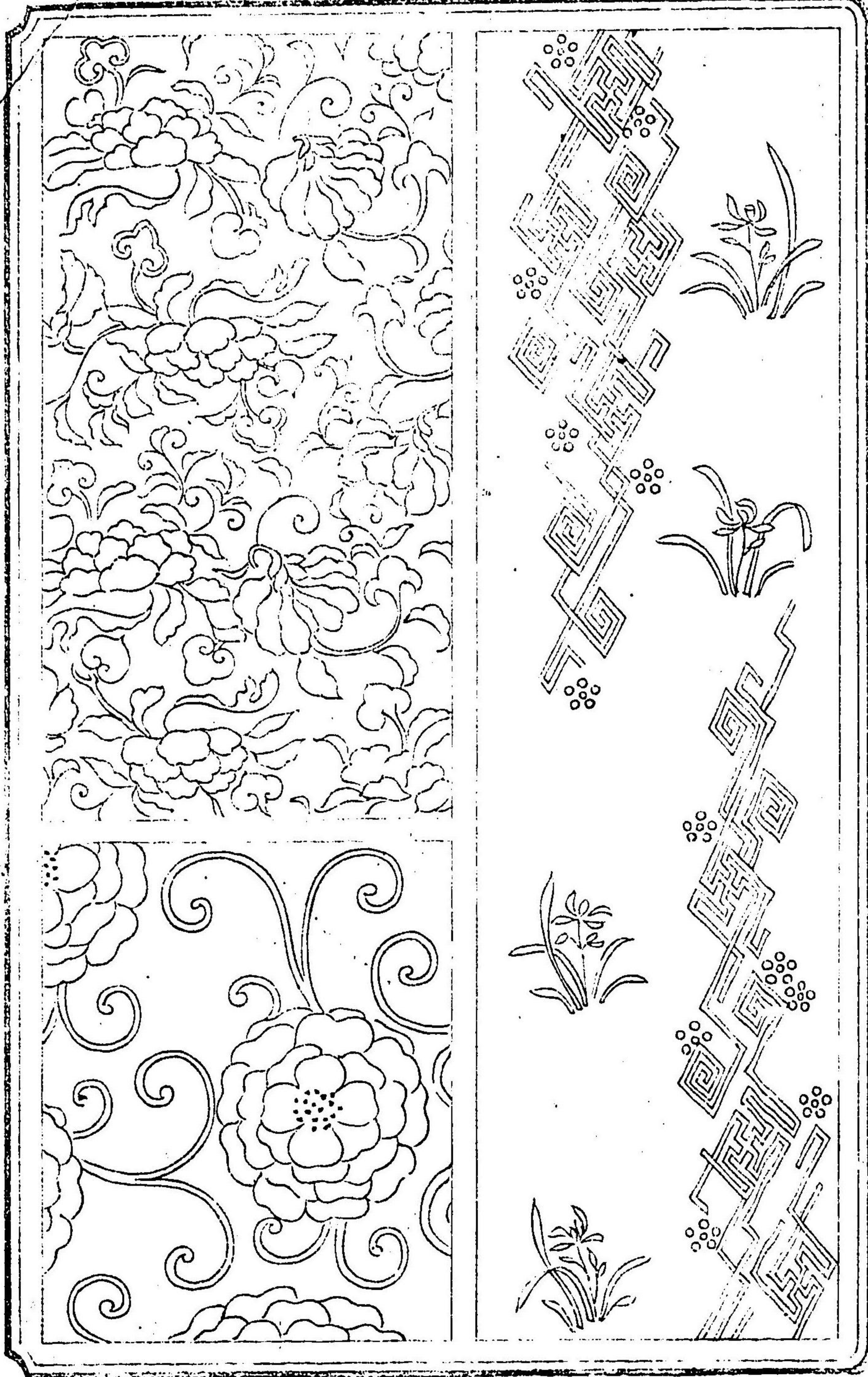


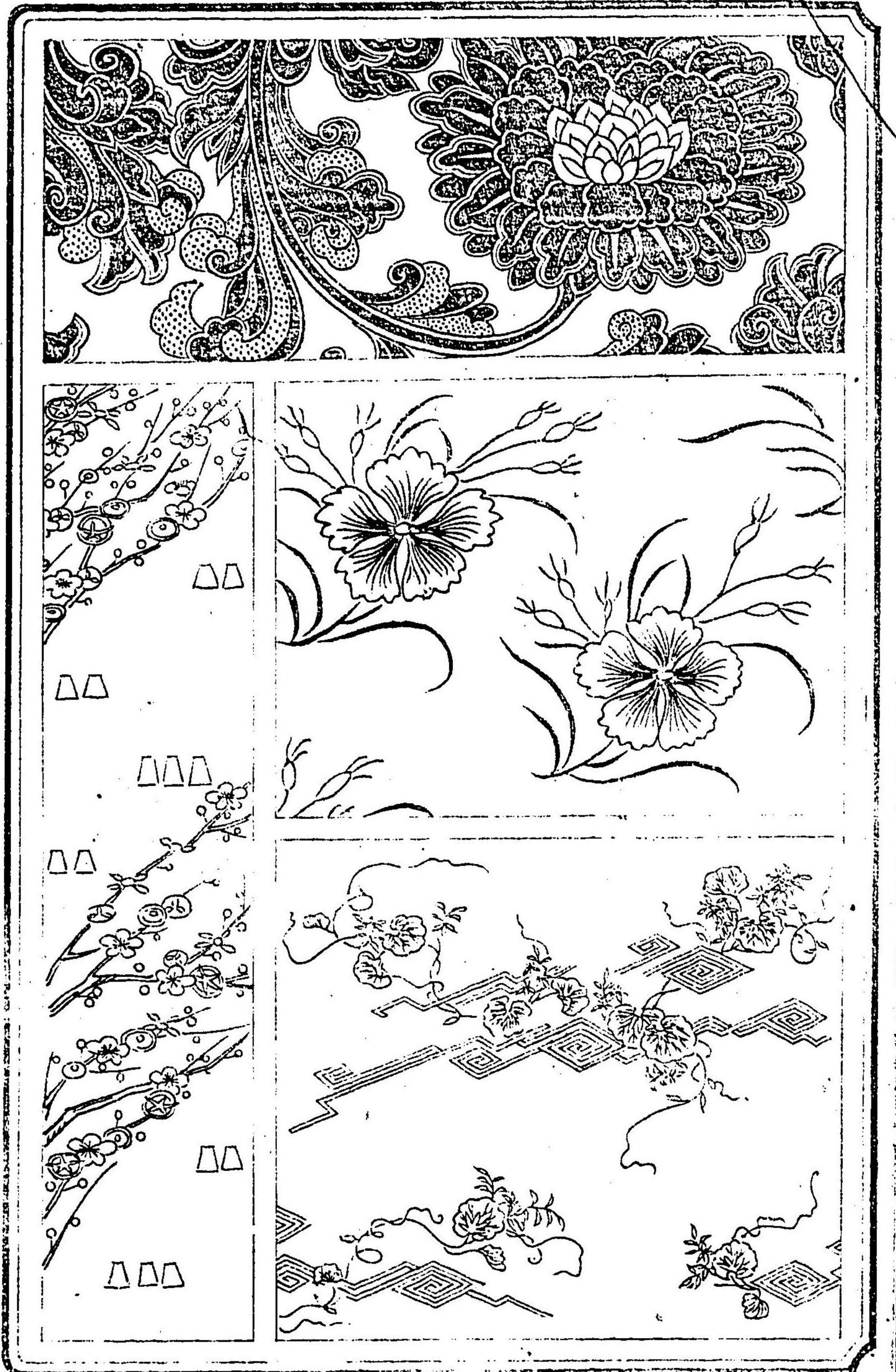


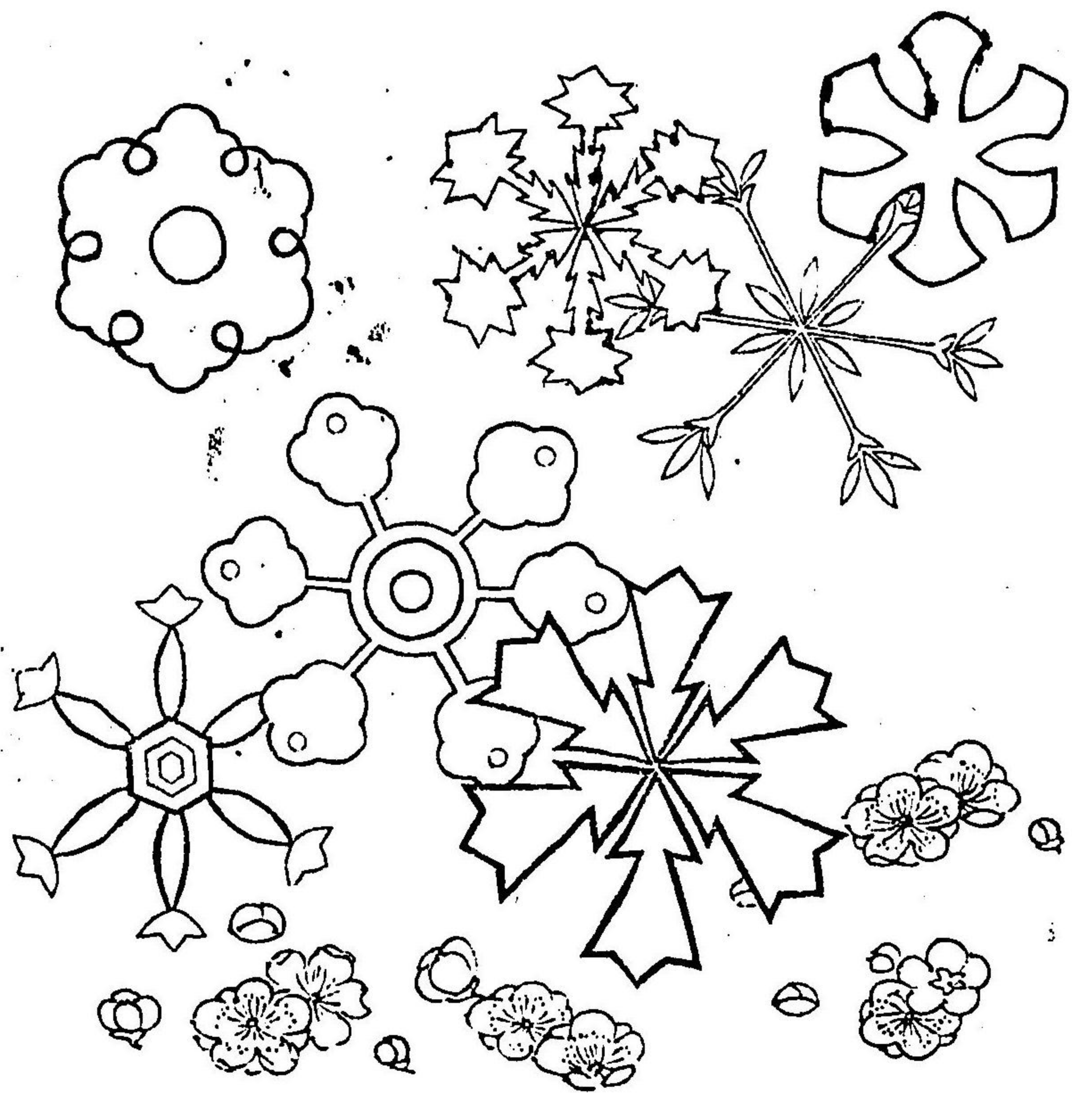












明治廿八年三月十日印刷
 年三月十五日發行

定價金廿五錢

著者

大阪市東區橫堀二丁目二番屋敷

中田彌三郎

發行者

大阪市南區心齋橋通二丁目百四十一番邸

小野彦三郎

公

大阪市南區南炭屋町七十四番屋敷

三宅英吉

彫刻者
 印刷者

大阪市南區鯉谷中之町百九十六番邸

中井徳次郎

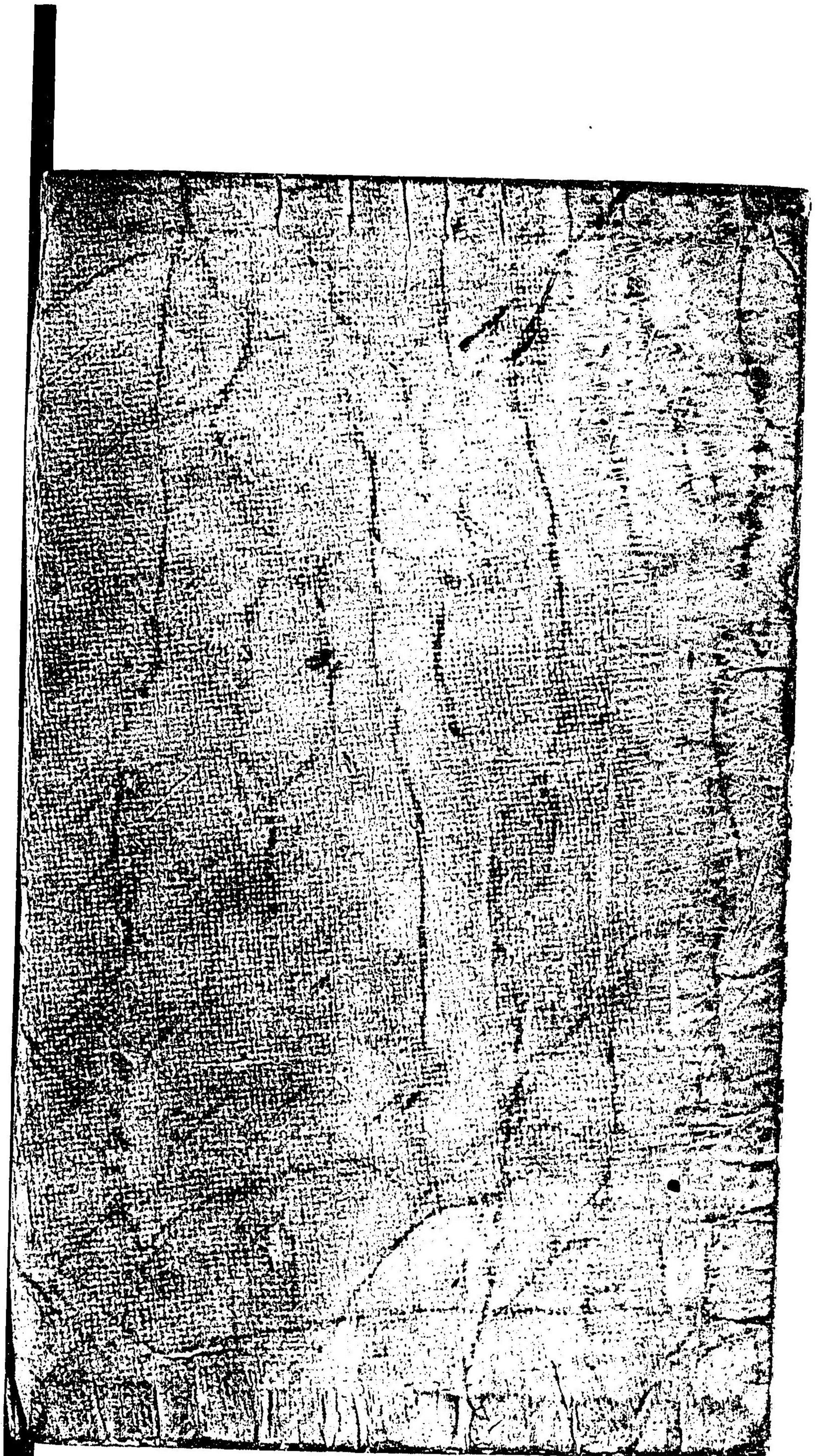
大阪市南區東清水町百九十一番屋敷

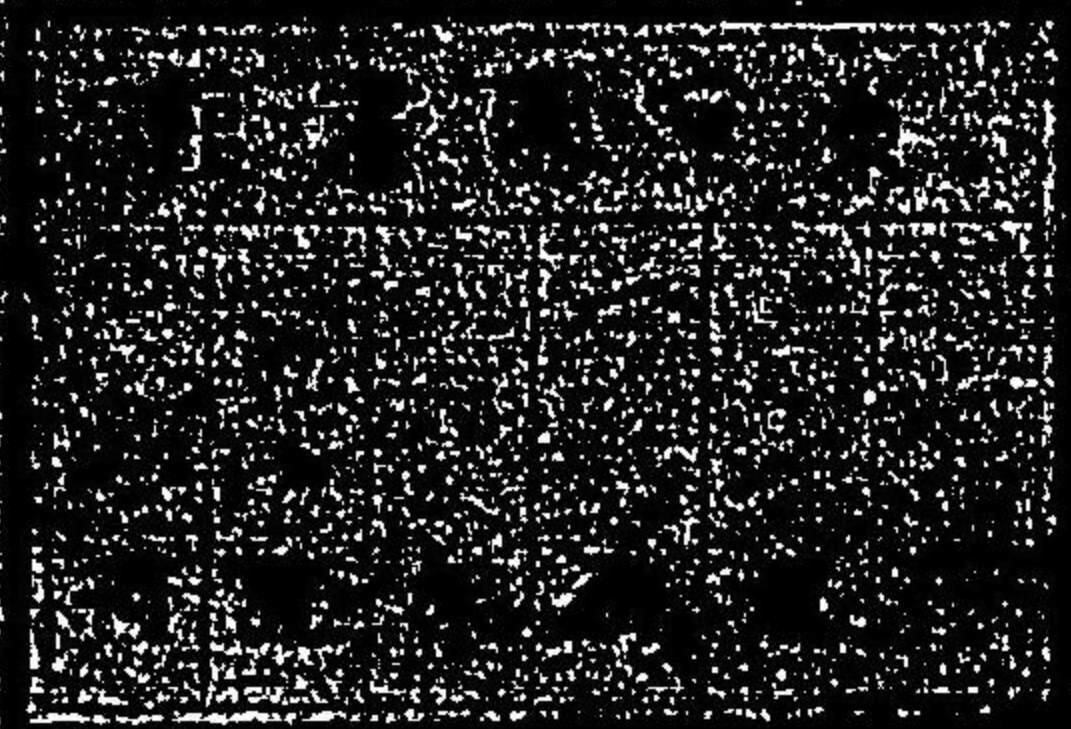
小野彦三郎支店

版權所

賣捌所

1
196





072315-000-9

1-196

求古美術模様

中田 弥三郎 / 著

M28

CEG-0068

